



EF EPI

EF English Proficiency Index

LOOKING AHEAD:

EFSET

The EF Standard
English Test

See page 5



目次

| | |
|----|--------------------------------|
| 03 | エグゼクティブ・サマリー |
| 05 | 今後の展望: 言語評価における EF EPIとイノベーション |
| 07 | EF EPI 2015 ランキング |
| 09 | 地域と国のデータ |
| 11 | ヨーロッパ |
| 25 | アジア |
| 35 | 中南米 |
| 45 | 中東と北アフリカ |
| 53 | 英語と経済および生活の質 |
| 55 | 英語とイノベーション |
| 57 | 英語とインターネット |
| 60 | 結論 |
| 61 | 付録 A: この指標について |
| 63 | 付録 B: EF EPI 各国スコア |
| 65 | 付録 C: CEFR レベルと推奨文 |
| 66 | 付録 D: 参考資料 (抜粋) |

エグゼクティブ・サマリー

2015年現在、英語は国際言語として広く受け入れられています。あらゆる教育システムにおいて、英語を全ての生徒が身につけるべき基礎技術とする認識はますます高まっています。英語教育の是非について議論が続いている国は数少なく、公立学校での英語教育においてどのような英語を教え、どのように評価し、そして必要な英語教育の量はどの程度かという議論が主流になっています。高等教育や職業訓練においては、時間や予算の配分がより慎重で、成人は主に実用的な目的のために英語を学んでいます。

現代の英語を取り巻く状況は、他の外国語と比べて突出しています。先進国では教育者や政治家が「英語だけで充分か」を議論しており、充分でなければどのような自国語や外国語をカリキュラムに取り入れるべきかが問題になっています。発展途上国では、多くの場合英語は発展の目標、サービス業の拡大、国際社会とのより強く強い結び付きといった要素に関連して捉えられます。こうした課題に対し、各国がそれぞれの視点で、自国の歴史や国内の言語を取り巻く状況、経済的パートナー関係にある国を考慮し、取り組みを進めています。

多くの国で、英語を自国の文化に対する脅威であるとする考えは後退しています。しかし、英語が人々を結び付け、情報を広め、貿易を促進するという可能性を最大限に発揮するには、まだ多くの変化が必要です。その中でも、私たちが考える最も重要な課題は、よりコミュニケーションを重視した教育への移行です。国の貧富に関わらず多くの国で、現在でも実用性をあまり重要視しない方針で英語教育が行われています。英語教師がコミュニケーションを教えられるようにならない限り、国や個人が国際言語の恩恵を最大限に受けることはできないでしょう。

このEF英語能力指数 (EF EPI) 第5版は2014年に910,000名以上の成人が受験したオンライン英語試験のデータを基に70の国と地域をランキングしています。この第5版では過去8年間を振り返りながら引き続き英語能力の変遷を記録します。

この第5版でも、英語能力の差は地域による影響が最も強いという結果になっています。この「環境効果」が最も顕著なのはヨーロッパ、ラテンアメリカ、そして中東です。成人の英語能力は短期間で変化するものではありませんが、この第5版では前回の報告と比較して進歩、停滞、減退などの傾向も見られました。主な傾向は以下の通りです：

- 世界的な成人の英語能力は昨年比べてわずかに向上していますが、上昇の内容には国、地域、年齢層で顕著なばらつきがありました。多くの国では大幅な変化は見られず、減退した国は少数でした。
- 英語能力が最高の国と最低の国の差は広がり、最高位のスウェーデンと最下位のリビアの間には33ポイントの差がつかまりました。
- 世界全体では英語能力レベルは18～20歳の年齢層で最高でした。ただし、世界的に見れば、30歳未満の成人で年齢による英語能力の差は非常に小さいものです。国ごとで見るとこれは当てはまらず、国によっては激しい世代差がある一方、ほとんど差が見られない国もありました。
- 世界全体では、女性が男性よりも英語を話す能力に優れていました。これは対象となった全ての地域と、ほぼすべての国に当てはまりました。性別による差が大きかったのは東ヨーロッパ、中東、そして北アフリカで、北ヨーロッパの能力レベルが高い国々では性別による差はほとんど見られませんでした。
- この指標ではヨーロッパの各国が英語能力ランキング上位を独占しました。特に北ヨーロッパと中央ヨーロッパが強く、過去5年に渡って上位の座を確固たるものにしていきます。フランスはヨーロッパの中では目立って英語能力の低い国となっています。
- アジアは他のどの地域よりも英語能力のばらつきが大きく、3ヶ国が高い能力レベルに入る一方、数ヶ国は最低能力レベルに分類されています。アジアはこの指標で最も人口の多い地域なので、この多様性は驚くべきものではありません。
- ラテンアメリカは英語能力が低い地域と言えますが、平均能力は向上しています。今年最低能力レベルに3ヶ国しか入っておらず、これは初めてのことでです。
- 中東と北アフリカ (MENA) は英語能力が非常に弱く、成人の英語能力が低下している唯一の地域です。他の多くの地域と異なり、MENAでは40歳以上が最も高い英語能力を見せています。
- ランキングには毎年変化がありますが、収入、インターネット接続環境、科学研究、その他のさまざまな要素と英語能力の相関関係は変わらず強いという結果が出ました。

今後の展望：言語評価における EF EPIとイノベーション

2011年の開始以降、EF EPIへの関心が高まり、個人、教育責任者、政策立案者の間で、安価で便利かつ信頼できる、効果的な英語能力テストに対する需要が高まるのを見てきました。Cambridge English FCE、TOEFL、TOEIC、IELTSなどの既存の英語標準テストは高品質ですが高額です。

加えて、毎年何百万もの人々がCambridge English FCE、TOEFL、TOEIC、IELTSを受験していますが、それは20億人近い英語学習者のごく一部の人々でしかありません。個人の英語学習者および企業や政府のような団体の多くが安価で高品質な英語標準テストを受験する機会に恵まれていません。

このような現状を受けて、EFはEF英語標準テスト (EFSET) を開発しました。他の標準テストと同じの基準で構築されたEFSETは、無料で提供され、データに基づいた研究と分析の上に成立しています。テストの項目は経験豊かな試験作成者によって作られ、専門家集団によって注意深く見直されてから、様々な言語学習環境にいる多様な学習者のグループで試験運用されています。試験結果は、実際に運用されるEFSETへ追加する前に精神測定学者とテスト開発者によって分析されます。

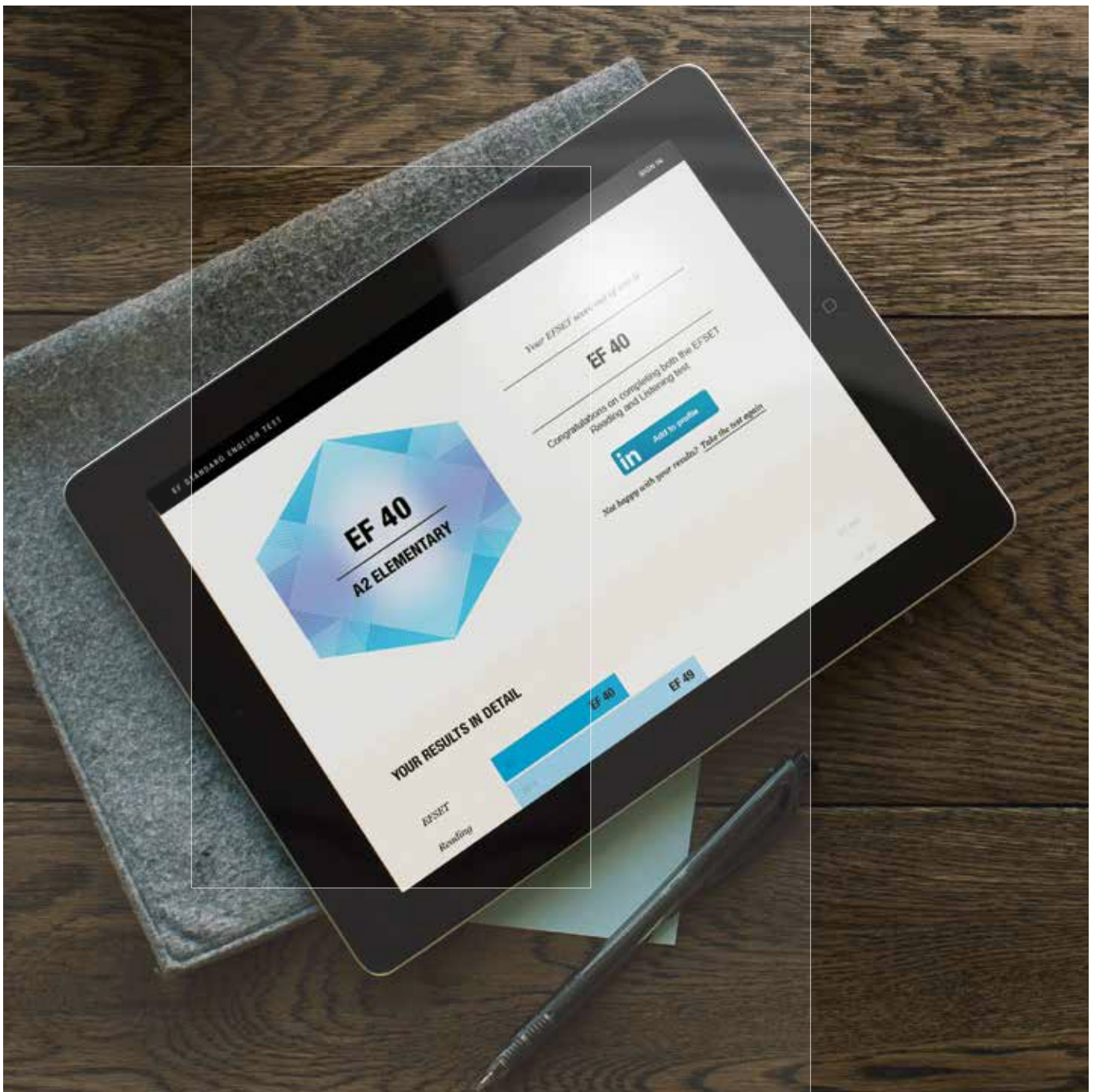
あらゆる言語学習者が簡単に高品質な英語テストを受験できるようにするため、EFSETはオンライン (www.efset.org) にて無料で提供しています。EFSETの結果は次回の版以降のEF EPIで使用され、国際的な成人の英語能力の指標として、EF EPIの発展に貢献するでしょう。



EF STANDARD ENGLISH TEST

EFSETを受験して

EF EPIに参加 WWW.EFSET.ORG



EF EPI 2015年ランキング

能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

非常に高い能力レベル

| | | |
|----|---------|-------|
| 01 | スウェーデン | 70.94 |
| 02 | オランダ | 70.58 |
| 03 | デンマーク | 70.05 |
| 04 | ノルウェー | 67.83 |
| 05 | フィンランド | 65.32 |
| 06 | スロベニア | 64.97 |
| 07 | エストニア | 63.73 |
| 08 | ルクセンブルク | 63.45 |
| 09 | ポーランド | 62.95 |

高い能力レベル

| | | |
|----|--------|-------|
| 10 | オーストリア | 61.97 |
| 11 | ドイツ | 61.83 |
| 12 | シンガポール | 61.08 |
| 13 | ポルトガル | 60.61 |
| 14 | マレーシア | 60.30 |
| 15 | アルゼンチン | 60.26 |
| 16 | ルーマニア | 59.69 |
| 17 | ベルギー | 59.13 |
| 18 | チェコ | 59.01 |
| 19 | スイス | 58.43 |
| 20 | インド | 58.21 |
| 21 | ハンガリー | 57.90 |

標準的な能力レベル

| | | |
|----|---------|-------|
| 22 | ラトビア | 57.16 |
| 23 | スペイン | 56.80 |
| 24 | ドミニカ共和国 | 56.71 |
| 25 | スロバキア | 56.34 |
| 26 | リトアニア | 55.08 |
| 27 | 韓国 | 54.52 |
| 28 | イタリア | 54.02 |
| 29 | ベトナム | 53.81 |
| 30 | 日本 | 53.57 |
| 31 | 台湾 | 53.18 |
| 32 | インドネシア | 52.91 |
| 33 | 香港 | 52.70 |
| 34 | ウクライナ | 52.61 |



低い能力レベル

| | | |
|----|----------|-------|
| 35 | ペルー | 52.46 |
| 36 | チリ | 51.88 |
| 37 | フランス | 51.84 |
| 38 | エクアドル | 51.67 |
| 39 | ロシア | 51.59 |
| 40 | メキシコ | 51.34 |
| 41 | ブラジル | 51.05 |
| 42 | アラブ首長国連邦 | 50.87 |
| 43 | コスタリカ | 50.53 |
| 44 | ウルグアイ | 50.25 |
| 45 | パキスタン | 49.96 |
| 46 | グアテマラ | 49.67 |
| 47 | 中国 | 49.41 |
| 48 | パナマ | 48.77 |

非常に低い能力レベル

| | | |
|----|----------|-------|
| 49 | スリランカ | 47.89 |
| 50 | トルコ | 47.62 |
| 51 | イエメン | 47.60 |
| 52 | モロッコ | 47.40 |
| 53 | ヨルダン | 47.33 |
| 54 | カザフスタン | 47.04 |
| 55 | エジプト | 46.73 |
| 56 | イラン | 46.59 |
| 57 | コロンビア | 46.54 |
| 58 | オマーン | 46.34 |
| 59 | ベネズエラ | 46.14 |
| 60 | アゼルバイジャン | 46.12 |

| | | |
|----|---------|-------|
| 61 | エルサルバドル | 45.52 |
| 62 | タイ | 45.35 |
| 63 | カタール | 43.72 |
| 64 | モンゴル | 43.64 |
| 65 | クウェート | 42.65 |
| 66 | イラク | 40.69 |
| 67 | アルジェリア | 40.34 |
| 68 | サウジアラビア | 39.93 |
| 69 | カンボジア | 39.15 |
| 70 | リビア | 37.86 |

地域と国のデータ

以下のセクションは、英語学習の歴史や最新の傾向についての地域別の分析です。各国の簡単なプロフィールでは、その国における特徴的な英語学習を取り巻く状況について紹介しています。国ごとのより詳細なデータは www.ef.com/epi に掲載しています。











国別データガイド

国名

標準的な能力レベル
EF EPIスコア: 52.50

#順位 / 70ヶ国中

| | | |
|---|---|---|
| 1 |  前年比 | +3.13 個 |
| 2 |  TOEFL/IELTS スコア | 85; 該当なし |
| 3 |  平均就学年数 | 9.8 |
| 4 |  教育支出 | 19.2% |
| 5 |  1人当たりの国民総所得 | 21,060 USD |
| 6 |  人口 | 17,363,894 |
| 7 |  インターネット普及率 | 66.5% |
| 8 |  言語 | スペイン語 (公用語) 99.5%、英語10.2%、少数言語 1%、その他 2.3% |

- このEF EPIスコアの変化は2013年に収集されたデータを基にした前年度版からの変化を表します。2.0ポイント以上の変化(↑ ↓)は英語能力レベルの顕著な変化とされます。2.0ポイント未満の変化(↔)はわずかな変化です。前年との差の世界平均は+1.45で、-4.10(カタール)から+5.07(パナマ)までの幅がありました。
- 69ヶ国が2013年のTOEFLスコア平均を所持しており、スコアの幅は61(サウジアラビア)から100(オーストリア)。29ヶ国は2013年のIELTSスコア平均を所持しており、4.3(サウジアラビア)から7.3(シンガポール)までのスコア幅がありました。
- 平均就学年数は、25歳以上の人を受けた教育の年数の平均です。公的に定められた学習到達度の各レベル(学位など)の平均的な就学期間を用いて算出しています。EF EPIの対象国では世界平均が9.2年で、2.5年(イエメン)から12.9年(ドイツ)までの幅がありました。
- この世界銀行による統計は国家予算のうち教育支出が占める割合を表しています。EF EPI対象国の世界平均は2010年から2013年の期間で14.0%で、7.3%(アゼルバイジャン)から31.3%までの幅がありました。
- 1人当たりの国民総所得(GNI)は購買力平価に基づく指標で、国際ドルに換算されています。1国際ドルは米国における1米国ドルと同じ購買力を持ちます。EF EPI対象国の2013年度の平均は**27,845ドル**で、**2,890ドル**(カンボジア)から**128,530ドル**(カタール)まで幅がありました。
- 人口はルクセンブルクの**520,672人**から中国の**13.6億人**までと、最も大きな幅がありました。これらのデータは2014年の統計で、CIAの世界年鑑によるものです。
- インターネット普及率はその国でインターネットにアクセスできる人の割合を表しています。EF EPI対象国の2013年の世界平均は**56.8%**で、**6.0%**(カンボジア)から**95.1%**(ノルウェー)まで幅がありました。
- CIAの世界年鑑から収集したデータで、その国で使われている言語を主要なものから一般的でないものの順に並べたものです。国の人口のうち、その言語の利用者の割合がパーセントで記載されている場合もあります。

ヨーロッパ

EF EPI 平均: 55.65
人口: 710,379,745
1人当たりの国民総所得: 29,891 USD

能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い



英語と複数言語の使用に優位性を持つヨーロッパ

ヨーロッパは世界のあらゆる地域の中で最高の英語能力レベルを持っています。欧州連合は全ての加盟国で明確に「複数言語と異文化の教育」を推進しています。こうした方針により、それぞれ異なる習熟のレベルと種類を持つヨーロッパの言語能力の向上を目指して様々な施策が実施されています。

輝く東ヨーロッパ

平均的に東ヨーロッパはヨーロッパの他の地域よりも高い英語能力を持っています。過去50年間の外国語教育の方針には差があるものの、英語能力の違いは東西ではっきり分かれるというよりも、ヨーロッパ全体でばらつきがあります。

ヨーロッパでは、地域、国、国際レベルの言語教育においてデータの収集や成功事例の情報交換に顕著な強みがあります。欧州評議会がそれを推進するよう取り組むことで、各国は相互の事例を知り、そこから学ぶことができます。現在も進歩の余地は残されているものの、ヨーロッパ全体として見れば共通言語を基盤とする接続性と交流という地域的優位性の恩恵を受けている地域と言えます。

北欧の強さ

北ヨーロッパの成人は、英語が主要言語ではない他の国と比べて優れた英語能力を持っています。デンマーク、オランダ、ノルウェー、スウェーデンは全てのEF EPIで上位5ヶ国に入っており、エストニアとフィンランドも安定して優秀です。世界の他の多くの地域とは逆に、北ヨーロッパでは男性が女性の成績を上回っています。

しかし、北ヨーロッパにおいては、英会話は広く一般的に親しまれているものの、多くの学生は英語での第3期教育を受けるのに必要なレベルの学術的な英語の習得に至っていないという課題が残されています。この「天井効果」に対し、近年はいくつかの国で対策が実施されています。これらの国では全ての学生が必須科目として英語を学ぶという特殊な状況になっています。現在は英語に留まらない多様な外国語能力の習得を目指し、同時に既存の言語の多様性に価値を与えるという取り組みが進められています。

並列的な英語とドイツ語

ドイツ語を公用語とする中央ヨーロッパの国は、18~20歳の年齢層が他のどの年齢層よりもはるかに高い英語能力レベルを持っているという特異な特徴があります。オーストリア、ドイツ、スイスの新規卒業者の英語能力は、これらの国における英語教育が過去に比べて効果的であることを示しています。これらの国の

成人の能力スコアはわずかな変化を見せたのみですが、中でも最も若い世代が高い能力を示したことで将来に期待が持てる結果となりました。

ポーランドは効果的な教育システムを持っており、OECDのPISA調査の数学、読解、科学で好成績を見せています。ポーランドは2002年から現在までで30~34歳の卒業生の人々の成績が3倍に向上しています。英語とドイツ語はポーランドの学校における主要な外国語で、およそ3分の2の生徒が最初に英語を学び、残りの3分の1が先にドイツ語を学びます。ほぼ全てのポーランドの生徒は高校卒業までに英語とドイツ語の両方を習得します。

複数言語方針の実例

高い英語能力レベルを示すヨーロッパの数ヶ国では、複数の公用語が定められています。ベルギー、ルクセンブルク、スイスは、学校教育の10年強で各生徒の言語能力を高めるシステムの好例と見ることができそうです。こうしたモデルによって、生徒の母語、母語以外の公用語、英語、他の外国語の多様な能力やレベルを発達させることが可能なのです。このような特徴を持つ多言語のカリキュラムを作るには各言語の役割、その役割のためにどのような技術の習得が必要か、そしてそうした技術を限られた時間で発達させる方法について、議論と合意の形成が必要です。

遅れをとる3大経済大国

西ヨーロッパにおける英語能力は完全にバラ色というわけではありません。英語を主な公用語としないヨーロッパ諸国の中の4大国のうち、3ヶ国がEU平均に後れをとっています。スペインとイタリアは過去8年間でいくらかの向上を見せたものの、フランスは依然として弱いままで。フランスは周辺国に比べてはるかに成績が悪く、ヨーロッパの周縁国と同等の能力レベルとなっています。文化的に英語に対する反感があることや教育システムの再構築ができていないことなど、原因はいくつか考えられますが、いずれにせよフランスの成績の動きは周辺国とは異なっています。

周辺国の弱さ

ロシアとウクライナの英語能力レベルはヨーロッパ平均を下回っています。この2国は非常に大きな国で教育システムが非集中的であり、言語の多様性も顕著です。

同様に、トルコとアゼルバイジャンの成人もヨーロッパの他の国に比べてはるかに低い英語能力を持っています。アゼルバイジャンは昨年初めてこの指標に登場しましたが、トルコの能力レベルは2012年から緩やかな下降傾向にあります。トルコでは英語の授業は文法が中心のかつ高い比率を占め、反復の多いカリキュラムとコミュニケーション教育の手法の少なさを特徴としています。こうした文法と暗記を主体とする教育が生徒のやる気をなくさせ、年間の授業時間は数百時間増えたにも関わらず英語能力は年々低くなり続けています。

しかし、トルコにはこの状況を改善する希望もあります。トルコの教師たちは既に英会話の教育に高い能力を持ち、若い世代の人口が多いことから、学校教育の改善によってそれほど時間がかからずに成人の英語能力の向上が実感されるでしょう。

結論

ヨーロッパの英語能力レベルには大きな幅があります。全体の傾向としては能力が高く上昇しているものの、やや低い能力のグループがいくつか見られます。均質的な小国から多様性を内包する大国まで、ヨーロッパには多くの学校教育システムおよび高度な英語を教える継続教育プログラムのサンプルがあります。言語に対するEUの先進的な方針により、ヨーロッパは世界中の中でも外国語教育一般、特に英語教育に関する多くの示唆に富んだ地域となっています。

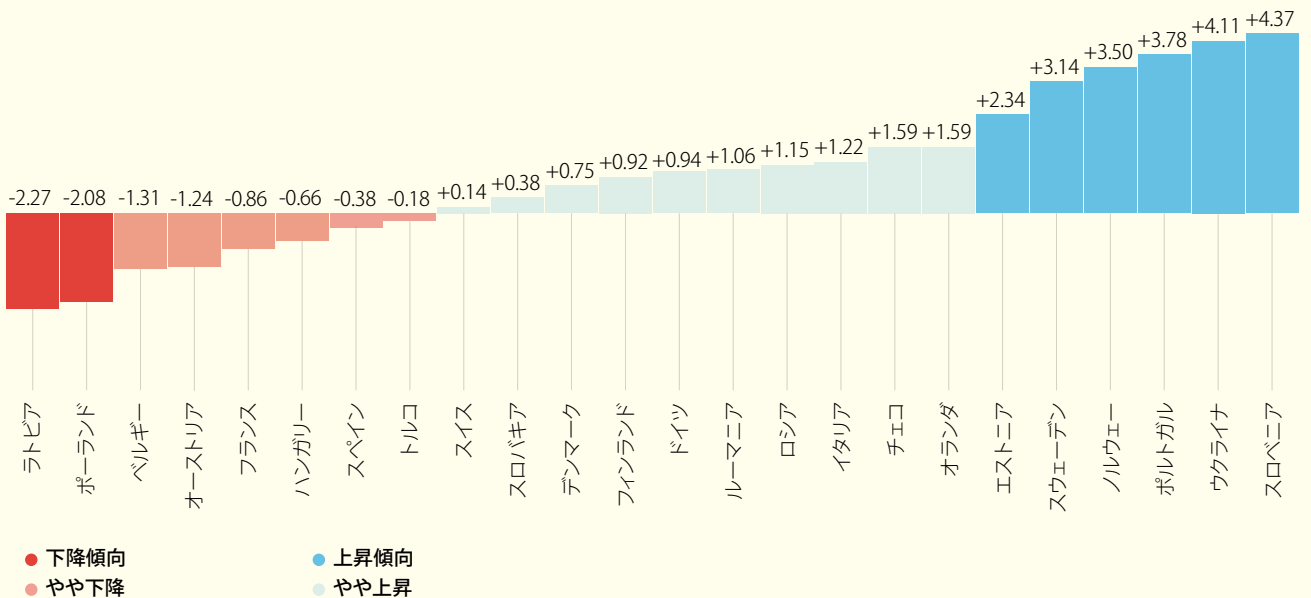
ヨーロッパ



EF EPI の傾向

ヨーロッパの英語能力は既に高いにも関わらず、さらに向上を見せています。6ヶ国で2.0を超える顕著なスコアの上昇がありました。顕著な減退を見せたのは2ヶ国のみで、それでも高い能力スコアを維持しています。ヨーロッパで最も能力レベルの低い下位2国は前回から動きがありませんでした。

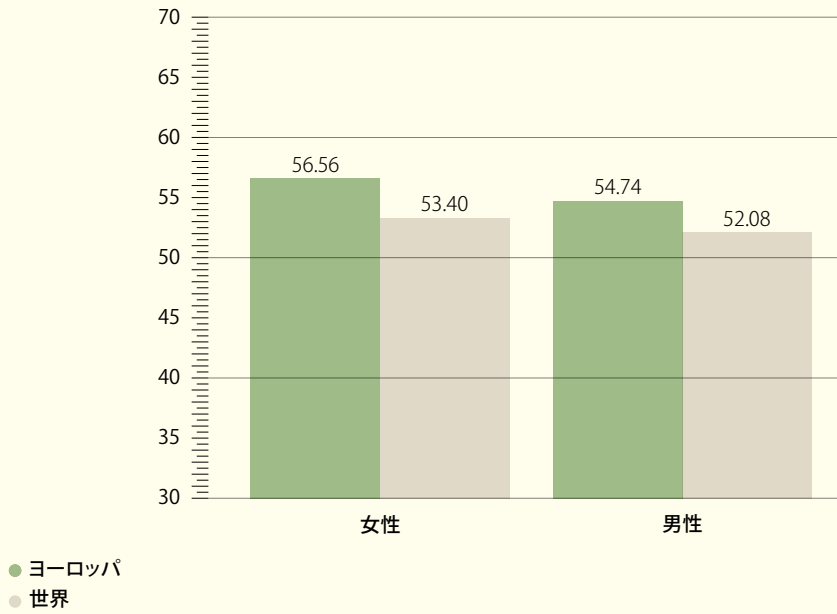
前年比



性別差

ヨーロッパの人々は男女問わず世界平均よりも顕著に高い成績を残しています。世界的な傾向と同様に、ヨーロッパの女性もヨーロッパの男性に比べて高い能力レベルを持っています。

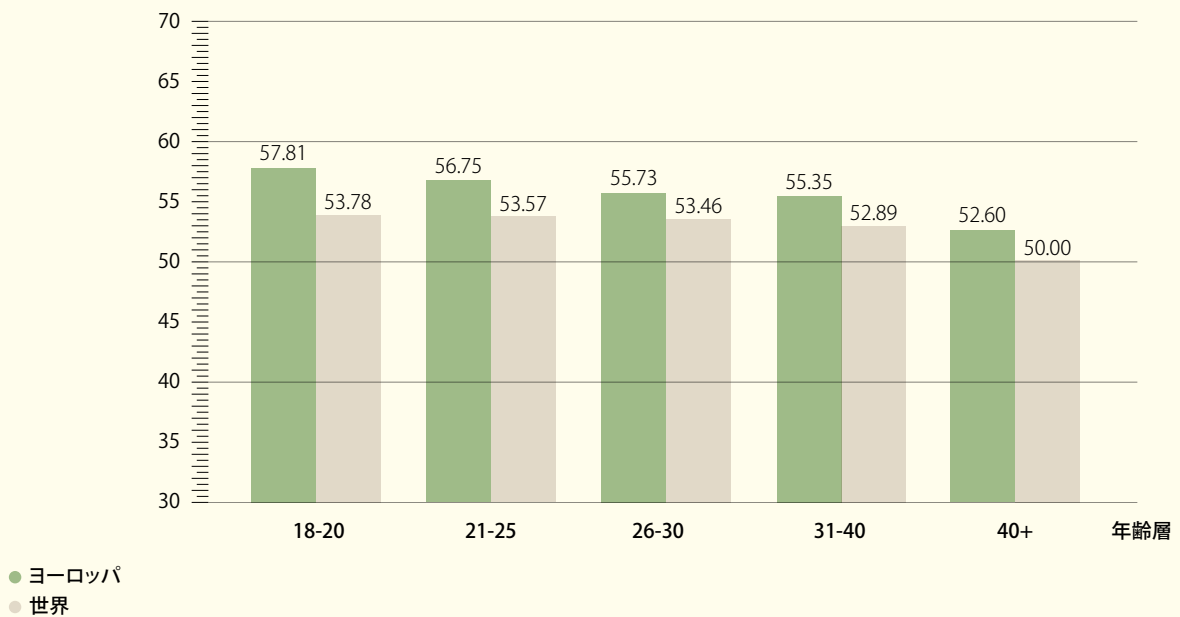
EF EPI スコア



世代差

他の全ての地域と異なり、ヨーロッパでは18～22歳の成人が最高の能力レベルを示しています。これは教育技術が向上したことを示唆しており、この先何年も成人の能力レベル平均が上がり続けることを期待させます。

EF EPI スコア











スウェーデン



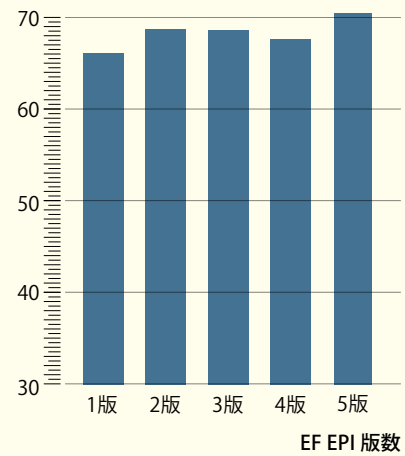
非常に高い能力レベル
EF EPI スコア: 70.94

#1 / 70ヶ国中

今年、スウェーデンはこの指標における1位に返り咲きました。EF EPIが発行された5年のうち3年で1位を占めたこととなります。スウェーデンは男性が女性よりも英語を話す能力に優れている数少ない国の1つですが、性別間の差はわずかなものです。スウェーデンの最新の教育改革には小学校教師の資格が設置されたこと、国立大学への入学資格に英語能力を必須にしたことが含まれ、教育支出を増やすことなく教育の向上が見られたことから、これらが低コストで高い効果をあげていることが証明されました。

| | |
|---|---------------------------------|
|  前年比 | +3.14 ↑ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 94; 該当なし |
|  平均就学年数 | 11.7 |
|  教育支出 | 13.2% |
|  1人当たりの国民総所得 | 46,170 USD |
|  人口 | 9,723,809 |
|  インターネット普及率 | 94.8% |
|  言語 | スウェーデン語 (公用語)、少数のサーミ語・フィンランド語話者 |

EF EPI スコア











オランダ



非常に高い能力レベル
EF EPI スコア: 70.58

#2 / 70ヶ国中









| | |
|---|-------------|
|  前年比 | +1.59 ↗ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 該当なし; 該当なし |
|  平均就学年数 | 11.9 |
|  教育支出 | 11.9% |
|  1人当たりの国民総所得 | 46,260 USD |
|  人口 | 16,877,351 |
|  インターネット普及率 | 94.0% |
|  言語 | オランダ語 (公用語) |

デンマーク



非常に高い能力レベル
EF EPI スコア: 70.05

#3 / 70ヶ国中

| | |
|---|---|
|  前年比 | +0.75 ↗ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 98; 該当なし |
|  平均就学年数 | 12.1 |
|  教育支出 | 15.2% |
|  1人当たりの国民総所得 | 45,300 USD |
|  人口 | 5,569,077 |
|  インターネット普及率 | 94.6% |
|  言語 | デンマーク語、フェロー語、グリーンランド語 (イヌイット方言)、ドイツ語 (少数) |

ノルウェー

非常に高い能力レベル
EF EPI スコア: 67.83

#4 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +3.50 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 94; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 12.6 |
| 📖 教育支出 | 15.0% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 65,450 USD |
| 👤 人口 | 5,147,792 |
| 🌐 インターネット普及率 | 95.1% |
| 🗨️ 言語 | ブークモール・ノルウェー語 (公用語)、ニーノシュク・ノルウェー語 (公用語)、少数のサーミ語・フィンランド語話者 |

フィンランド

非常に高い能力レベル
EF EPI スコア: 65.32

#5 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +0.92 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 96; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 10.3 |
| 📖 教育支出 | 12.3% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 39,860 USD |
| 👤 人口 | 5,268,799 |
| 🌐 インターネット普及率 | 91.5% |
| 🗨️ 言語 | フィンランド語 (公用語) 94.2%、スウェーデン語 (公用語) 5.3%、その他 (少数のサーミ語、ロシア語話者を含む) 5.4% |

スロベニア

非常に高い能力レベル
EF EPI スコア: 64.97

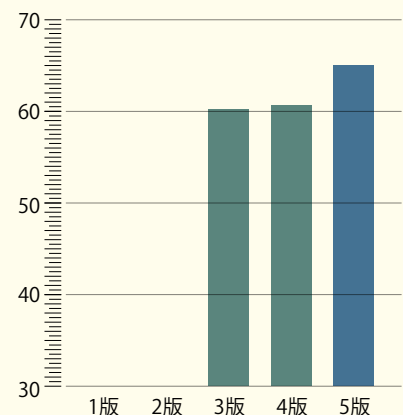
#6 / 70ヶ国中



スロベニアの成人の英語能力はわずかに向上を見せました。ヨーロッパの国では過去2年間のスコアの伸びが最も大きかった国の一つです。スロベニアはTOEFLやPISAなどの国際テストで常にOECDの他の国よりも優秀な成績をあげており、この国の成人は世界の英語を公用語としない国の中で最も英語能力が高い部類に入ります。スロベニアは歴史的に多言語の文化を持っています。現代では、英語は公教育のカリキュラムの中でドイツ語と並び特別な地位を占めており、ほぼ全ての生徒がこのこれら2つの言語の両方を学びます。

| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +4.37 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 96; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 11.9 |
| 📖 教育支出 | 12.1% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 28,650 USD |
| 👤 人口 | 1,988,292 |
| 🌐 インターネット普及率 | 72.7% |
| 🗨️ 言語 | スロベニア語 (公用語) 91.1%、セルビア・クロアチア語 4.5%、その他または記載なし 4.4% |

EF EPI スコア



EF EPI 版数

エストニア

非常に高い能力レベル
EF EPI スコア: 63.73

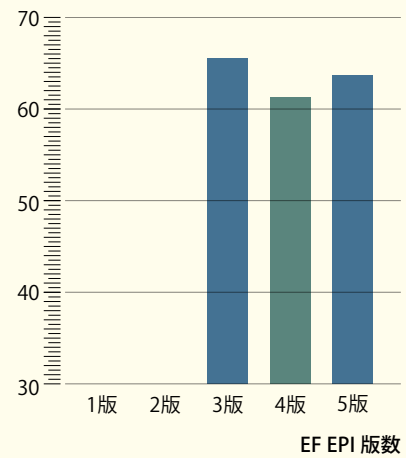


#7 / 70ヶ国中

エストニアは多言語国家で、全ての学生が第2言語または第3言語として英語を学んでいます。ロシア語話者のエストニア人は最初にエストニア語を学び、次に英語を学びます。ヨーロッパの中では経済的發展が遅れている国の一つですが、エストニアの成人の英語能力レベルは1人当たりの国民総所得がはるかに高い他の国よりも優れています。エストニアの大学生の半数はカリキュラムの一部として英語の教育を受けており、タリン大学は全ての生徒に外国語をC1レベルで習得することを推奨しています。大学レベルの授業はあらゆる学部で英語で行われており、これは世界中の高い英語能力を示す国に共通の特徴です。

| | |
|-----------------|--|
| 前年比 | +2.34 ↑ |
| TOEFL/IELTS スコア | 94; 該当なし |
| 平均就学年数 | 12.0 |
| 教育支出 | 13.7% |
| 1人当たりの国民総所得 | 24,920 USD |
| 人口 | 1,257,921 |
| インターネット普及率 | 80.0% |
| 言語 | エストニア語 (公用語) 68.5%、 ロシア語 29.6%、その他 1.2% |

EF EPI スコア



ルクセンブルク

非常に高い能力レベル
EF EPI スコア: 63.45



#8 / 70ヶ国中

| | |
|-----------------|--|
| 前年比 | 該当なし |
| TOEFL/IELTS スコア | 97; 該当なし |
| 平均就学年数 | 11.3 |
| 教育支出 | 該当なし |
| 1人当たりの国民総所得 | 57,830 USD |
| 人口 | 520,672 |
| インターネット普及率 | 93.8% |
| 言語 | ルクセンブルク語 (公用語、国語) フランス語 (公用語)、ドイツ語 (公用語) |

ポーランド

非常に高い能力レベル
EF EPI スコア: 62.95



#9 / 70ヶ国中

| | |
|-----------------|--|
| 前年比 | -1.31 ↓ |
| TOEFL/IELTS スコア | 90; 6.3 |
| 平均就学年数 | 11.8 |
| 教育支出 | 11.4% |
| 1人当たりの国民総所得 | 22,830 USD |
| 人口 | 38,346,279 |
| インターネット普及率 | 62.8% |
| 言語 | ポーランド語 (公用語) 96.2%、 シレジア語 1.4%、その他 1.1%、 記載なし 1.3% |

オーストリア

高い能力レベル
EF EPI スコア: 61.97

#10 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | -1.24 ↓ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 100; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 10.8 |
| 📖 教育支出 | 11.4% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 45,450 USD |
| 👤 人口 | 8,223,062 |
| 🌐 インターネット普及率 | 80.6% |
| 🗨️ 言語 | ドイツ語 (国家全体の公用語) 88.6%、トルコ語 2.3%、セルビア語 2.2%、クロアチア語 (ブルゲンラント公用語) 1.6%、その他 5.3% |

ドイツ

高い能力レベル
EF EPI スコア: 61.83

#11 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|------------|
| 📅 前年比 | +0.94 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 97; 7.0 |
| 🏠 平均就学年数 | 12.9 |
| 📖 教育支出 | 11.0% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 45,010 USD |
| 👤 人口 | 80,996,685 |
| 🌐 インターネット普及率 | 84.0% |
| 🗨️ 言語 | ドイツ語 (公用語) |

ポルトガル

高い能力レベル
EF EPI スコア: 60.61

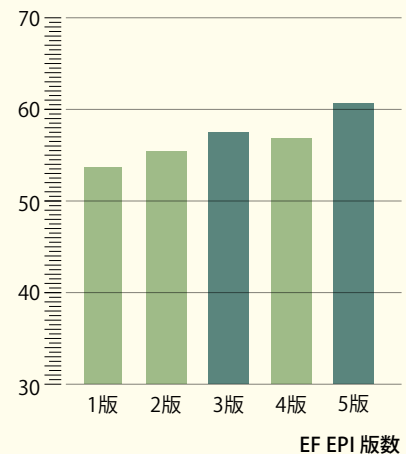
#13 / 70ヶ国中



2007年から顕著な向上が見られるものの、ポルトガルの英語能力は同地域の他の国と比べて平均的です。世界全体の傾向とは逆に、ポルトガルでは男性の方が女性よりわずかに高い能力を示しました。ポルトガルの英語能力レベルは、この国の平均就学年数がヨーロッパでも最短の部類に入ること考えれば優れています。1989年、ポルトガルの全ての児童を対象に英語が必修化されました。このように英語を他の言語とは違う特別な外国語として位置づける施策は、全ての能力レベル上位の国に共通しています。

| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +3.78 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 95; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 8.2 |
| 📖 教育支出 | 10.7% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 27,190 USD |
| 👤 人口 | 10,813,834 |
| 🌐 インターネット普及率 | 62.1% |
| 🗨️ 言語 | ポルトガル語 (公用語)、ミランダ語 (公用語、ただし使用される地域は限定的) |

EF EPI スコア



ルーマニア

高い能力レベル
EF EPI スコア: 59.69

#16 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | +1.06 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 91; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 10.7 |
| 📖 教育支出 | 8.3% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 18,390 USD |
| 👤 人口 | 21,729,871 |
| 🌐 インターネット普及率 | 49.8% |
| 🗨️ 言語 | ルーマニア語(公用語) 85.4%、ハンガリー語 6.3%、 ロマ語(ジプシー) 1.2%、 その他 1%、記載なし 6.1% |

ベルギー

高い能力レベル
EF EPI スコア: 59.13

#17 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | -2.08 ↓ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 97; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 10.9 |
| 📖 教育支出 | 12.2% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 41,160 USD |
| 👤 人口 | 10,449,361 |
| 🌐 インターネット普及率 | 82.2% |
| 🗨️ 言語 | オランダ語(公用語) 60%、フランス 語(公用語) 40%、ドイツ語(公用 語) 1% 未満 |

チェコ

高い能力レベル
EF EPI スコア: 59.01

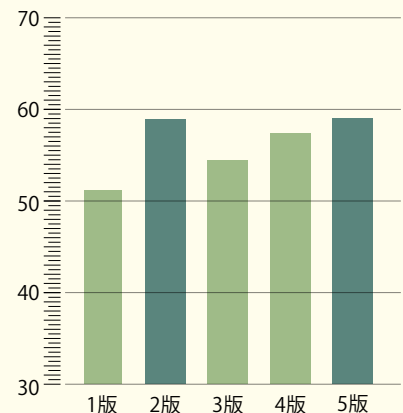
#18 / 70ヶ国中



チェコ共和国は今年「高い能力レベル」ランクに復帰しました。2007年からスコアには大きな揺れがあるものの、チェコのEF EPIスコアはおおむね上昇傾向を見せています。人口のほとんどがチェコ語を話す一方で、公教育システムの中では学生の多くが英語を外国語として選択し履修しています。平均就学年数は12.3年で、世界でもかなり長い部類です。チェコの学校は既に教育効果を上げていますが、2005年以降、政府は継続的に教育支出を増やしています。さらに政府は最近、教育方針を改善するための追加方針を施行しました。

| | |
|-------------------|-----------------------------------|
| 📅 前年比 | +1.59 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 91; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 12.3 |
| 📖 教育支出 | 10.4% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 26,970 USD |
| 👤 人口 | 10,627,448 |
| 🌐 インターネット普及率 | 74.1% |
| 🗨️ 言語 | チェコ語 95.4%、スロバキア語 1.6%、 その他 3% |

EF EPI スコア



EF EPI 版数

スイス

高い能力レベル
EF EPI スコア: 58.43

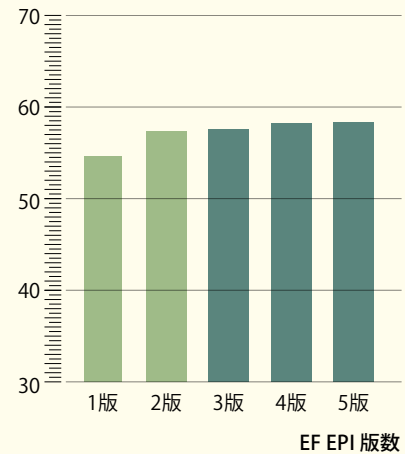


#19 / 70ヶ国中

スイスは3つの公用語を持ち、全て英語ではないので、スイスが高い能力レベルを示すのは驚くべきことです。学校では全ての生徒が少なくとも2言語の国語を学びますが、英語は国語と同様にスイスの教育システムの中心に位置づけられています。このようにして、スイスは成功した複数言語教育の見本となっています。ヨーロッパでも最高の1人当たり国民総所得を持つ国の一つとして、スイスは他の国よりも多くの予算を教育に割いているということも特記すべきです。

| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | +0.14 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 97; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 12.2 |
| 📖 教育支出 | 15.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 59,610 USD |
| 👤 人口 | 8,061,516 |
| 🌐 インターネット普及率 | 86.7% |
| 🗨️ 言語 | ドイツ語 (公用語) 64.9%、フランス語 (公用語) 22.6%、イタリア語 (公用語) 8.3%、セルビア・クロアチア語 2.5%、アルバニア語 2.6%、ポルトガル語 3.4%、スペイン語 2.2%、英語 4.6%、その他 5.1% |

EF EPI スコア



ハンガリー

高い能力レベル
EF EPI スコア: 57.90



#21 / 70ヶ国中

| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | -0.66 ↘ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 92; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 11.3 |
| 📖 教育支出 | 9.4% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 22,660 USD |
| 👤 人口 | 9,919,128 |
| 🌐 インターネット普及率 | 72.6% |
| 🗨️ 言語 | ハンガリー語 (公用語) 99.6%、英語 16%、ドイツ語 11.2%、ロシア語 1.6%、ルーマニア語 1.3%、フランス語 1.2%、その他 4.2% |

ラトビア

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 57.16



#22 / 70ヶ国中

| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | -2.27 ↓ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 89; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 11.5 |
| 📖 教育支出 | 8.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 22,510 USD |
| 👤 人口 | 2,165,165 |
| 🌐 インターネット普及率 | 75.2% |
| 🗨️ 言語 | ラトビア語 (公用語) 56.3%、ロシア語 33.8%、記載なし 9.4% |

スペイン

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 56.80

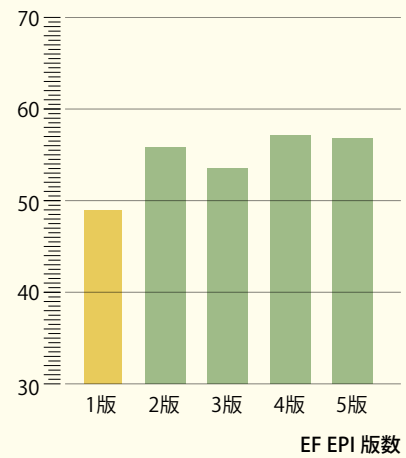
#23 / 70ヶ国中



スペインの英語能力は顕著な向上を示しています。近年、政府主導により大々的にバイリンガルスクールやランゲージ・エクステンジが進められています。スペインの小学校と中等学校で行われている大規模なバイリンガル教育の実験は2004年に開始され、公教育のシステムが英語教育に力を入れることは、他の教科の学習効果を妨げることなく教育効果を向上させられることが分かってきました。また、スペインのEF EPIスコアは、世界でも最も男女差が小さい部類に入ります。

| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | -0.38 ↓ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 89; 6.6 |
| 🏠 平均就学年数 | 9.6 |
| 📖 教育支出 | 10.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 32,870 USD |
| 👤 人口 | 47,737,941 |
| 🌐 インターネット普及率 | 71.6% |
| 🗨️ 言語 | キャストラ・スペイン語 (公用語) 74%、カタロニア語 17%、ガリシア語 7%、バスク語 2% |

EF EPI スコア



スロバキア

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 56.34

#25 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +0.38 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 90; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 11.6 |
| 📖 教育支出 | 10.4% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 25,970 USD |
| 👤 人口 | 5,443,583 |
| 🌐 インターネット普及率 | 77.9% |
| 🗨️ 言語 | スロバキア語 (公用語) 78.6%、ハンガリー語 9.4%、ロマ語 2.3%、リトアニア語 1%、その他または記載なし 8.8% |

リトアニア

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 55.08

#26 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | 該当なし |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 86; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 12.4 |
| 📖 教育支出 | 13.6% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 24,530 USD |
| 👤 人口 | 3,505,738 |
| 🌐 インターネット普及率 | 68.5% |
| 🗨️ 言語 | リトアニア語 (公用語) 82%、ロシア語 8%、ポーランド語 5.6%、記載なし 3.5% |

イタリア

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 54.02

#28 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|------------------------------|
| 📅 前年比 | +1.22 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 91; 6.2 |
| 🏠 平均就学年数 | 10.1 |
| 📖 教育支出 | 8.0% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 35,220 USD |
| 👤 人口 | 61,680,122 |
| 🌐 インターネット普及率 | 58.5% |
| 🗨️ 言語 | イタリア語(公用語)、ドイツ語、フランス語、スロベニア語 |

ウクライナ

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 52.61

#34 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +4.11 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 83; 5.8 |
| 🏠 平均就学年数 | 11.3 |
| 📖 教育支出 | 13.7% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 8,970 USD |
| 👤 人口 | 44,291,413 |
| 🌐 インターネット普及率 | 41.8% |
| 🗨️ 言語 | ウクライナ語(公用語) 67.5%、ロシア語(地域言語) 29.6%、その他 2.9% |

フランス

低い能力レベル
EF EPI スコア: 51.84

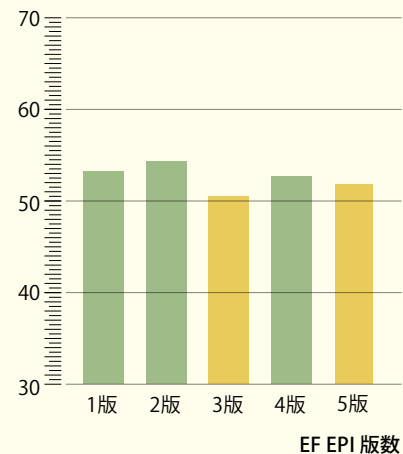
#37 / 70ヶ国中



調査の対象となったEU諸国の中で、フランスは最も低い英語能力レベルを示し、さらに全世界での成人の平均能力レベルをわずかに下回りました。フランスのEF EPIスコアは過去8年間でほとんど変化が見られませんが、対象国数の増加によりこの指標の中での順位は20位下落しました。残念ながら、フランスが近い将来により良い成績を出す予測できる根拠は存在しません。最近のフランスの新規卒業者とそれより上の年齢層のフランスの成人は、能力レベルがほぼ同等です。

| | |
|-------------------|-----------------|
| 📅 前年比 | -0.86 ↘ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 88; 6.7 |
| 🏠 平均就学年数 | 11.1 |
| 📖 教育支出 | 9.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 38,180 USD |
| 👤 人口 | 66,259,012 |
| 🌐 インターネット普及率 | 81.9% |
| 🗨️ 言語 | フランス語(公用語) 100% |

EF EPI スコア



ロシア

低い能力レベル
EF EPI スコア: 51.59

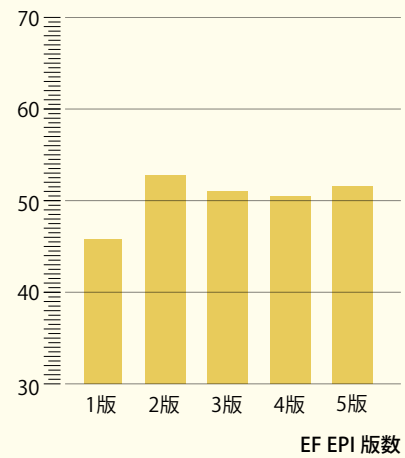


#39 / 70ヶ国中

ロシアの成人の英語能力はヨーロッパの平均に比べるとかなり低い方で、女性と男性の能力差も大きな開きがあります。2018年にロシアでFIFAワールドカップが開催されることから、政府は観光業に従事する人々が外国人観光客とコミュニケーションをとる際に使える基礎的な英語のフレーズを習得できるような取り組みを強化しています。全体的に、ロシアにはその広大な国土に対して高いレベルでの英語教育を行える高度な技術を持つ英語教師の数が不足していると言えます。

| | |
|-------------------|----------------------------------|
| 📅 前年比 | +1.15 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 84; 6.4 |
| 🏠 平均就学年数 | 11.7 |
| 📖 教育支出 | 12.0% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 24,280 USD |
| 👤 人口 | 142,470,272 |
| 🌐 インターネット普及率 | 61.4% |
| 🗨️ 言語 | ロシア語 (公用語)、ドイツ語、チェチエン語、タタール語、その他 |

EF EPI スコア



トルコ

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 47.62



#50 / 70ヶ国中

| | |
|-------------------|--------------------------|
| 📅 前年比 | -0.18 ↘ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 76; 5.4 |
| 🏠 平均就学年数 | 7.6 |
| 📖 教育支出 | 8.6% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 18,570 USD |
| 👤 人口 | 81,619,392 |
| 🌐 インターネット普及率 | 46.3% |
| 🗨️ 言語 | トルコ語 (公用語)、クルド語、その他の少数言語 |

アゼルバイジャン

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 46.12



#60 / 70ヶ国中

| | |
|-------------------|---------------------------------------|
| 📅 前年比 | 該当なし |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 78; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 11.2 |
| 📖 教育支出 | 7.3% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 16,180 USD |
| 👤 人口 | 9,686,210 |
| 🌐 インターネット普及率 | 58.7% |
| 🗨️ 言語 | アゼルバイジャン語 (公用語) 92.5%、ドイツ語 (公用語) 1%以下 |

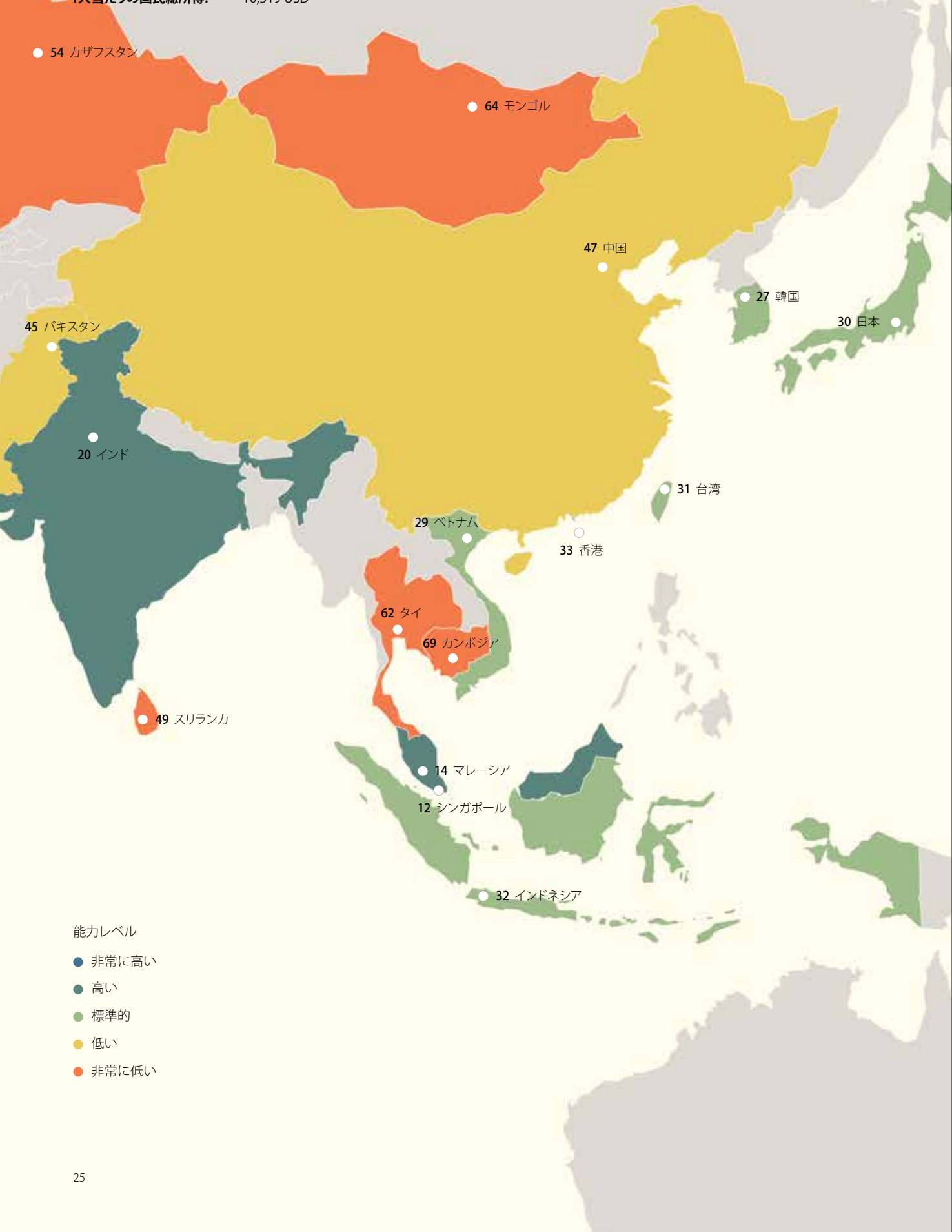


ブダベスト

ヨーロッパ全体として見れば共通言語を基盤とする接続性と交流という地域的優位性の恩恵を受けている地域と言えます。

アジア

EF EPI 平均: 53.21
人口: 3,503,467,893
1人当たりの国民総所得: 10,319 USD



能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

英語の教育と評価を再構築するアジア

2007年以降、アジアの成人の英語能力レベルは他のどの地域よりも高い向上率を見せてきました。世界の人口の半分を占めるアジアは能力レベルにも大きな幅があります。シンガポールとカンボジアの間には20ポイントの差がつかしました。世界の地域の中でも経済成長が続いているアジアでは、国際化を促進するツールとしての英語教育への投資が進められています。

インドの順位が上昇

今年、インドが初めてシンガポールとマレーシアに並ぶアジア地域ランキング上位国に入りました。カザフスタンとベトナムも昨年から躍進し、アジアでは最もスコアが上がった国となりました。これらの国の英語能力はほとんど並ぶ国がないほど急速に向上しています。

その一方で、中国、香港、日本、韓国では、英語教育に相当の投資を行っているにも関わらず英語能力レベルは停滞しています。タイは昨年比でアジアで最も大きい下落を見せ、非常に低い能力レベルに留まりました。インドネシア、マレーシア、台湾は昨年比での上昇はないものの、アジアの他の地域に比べると優秀なスコアです。

教師を重要視するマレーシア

マレーシアの成人の英語能力レベルはEF EPI第1版の発行当初から変わらず今年も高い能力レベルに留まりました。既に高い能力レベルですが、マレーシアは国として英語教師を育成するという大々的なプログラムを2011年に開始しました。英語教師養成プログラム(Pro-ELT)は教師の英語能力を高度なレベル(C1)まで引き上げ、教育能力を育成することで、生徒がマレー語と英語のバイリンガルとして能力を発揮できるように指導することを目指しています。

Pro-ELTプログラムは政府による教育改革の一部で、2020年までには全ての学校で100%の実施率を実現することを目標としています。これはPISAやTIMSSといった国際テストで今後15年の間にマレーシアが全体の上位3分の1に入ること、また同時に貧富の差や都会と地方の差による学習到達度のギャップを現状の50%に減らすことを目指しています。これらの野心的な目標と教育システムの全体的な改革はマレーシアにおけるより良い英語教育に貢献しています。

変化する中国の英語試験と指導

中国は英語教育に投資を行っているにも関わらず、低い能力レベルで停滞しています。圧倒的な人口が都市部と地方に広がっているため、全体的な英語能力を向上させるのは難しい現状です。ただし、わずかなずつではあります向上は見られます。

最近、中国の英語学習および試験実施団体がオンラインへの移行を加速させており、主要な都市からより小規模な都市、さらには都市から離れた地方への拡大が進んでいます。中国におけるオンライン学習者は2013年の6,720万人から2017年には1億2,000万人まで増えると予想されています。

2013年10月、北京市教育委員会は国立大学入学試験における英語科目を2016年から3段階に分けて改革する計画を発表しました。この改革案は現在の大きなプレッシャーを伴う1日限りの試験から、全体の点数と英語が全体に占める割合を減らし、さらに生徒が複数回受験してその中で最も良い成績を使えるようにするものです。これらの変更は生徒の本来の英語能力をより正確に判定し、テストによるストレスを減らし、暗記中心の英語学習の文化に変化を起こすことを目的としています。

韓国の英語学習熱

韓国は世界で最も人口1人当たりの個人英語学習市場規模が大きい国です。2013年には個人の学習に1,840億ドルが使われ、その3分の1が英語学習でした。こうした投資にも関わらず、韓国の英語能力は向上していません。英語は、韓国の学校で高度な教育ができていない数少ない教科の1つです。韓国は世界でも有数の高い大学進学率を誇っています。全ての生徒が学校で国際コミュニケーションの道具としての英語を学べるようになるまでは、韓国の英語学習熱は続く予想されます。

日本とタイの標準化への取り組み

日本の教育システムは他の部分では効果的ですが、英語学習に関しては日本の指導方法や教材では学習効果が上がらないことはあまり認識されないまま、教科の1つとして取り入れられています。政府はこれまで何度か改革に失敗して、現在はTOEFLのような民間の英語試験業者を援助し、その試験結果を高校や大学でより実用的な英語の教育を行う参考にする取り組みを始めました。日本人のみを対象として作られた試験を脱却することは、教育システムの不備を割り出し、学校側がその結果の責任を負うための方法です。ただし、テストを実施しているのが民間の業者であるだけに、そこと提携して全ての生徒に試験を

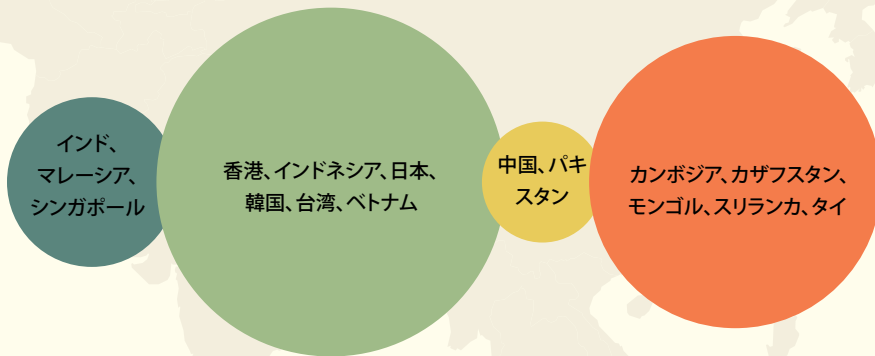
受けさせるのは日本のような裕福な国でなければ無理でしょう。

タイは観光業が大きな市場になっているにも関わらず、英語能力は低いまです。昨年5月から、タイ政府は全ての学校に対し、英語教育をヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)を基準に行うことを求めています。これは国全体で教育内容を標準化するためです。タイ政府はまた、全ての高校卒業者がB1レベルの英語を習得するという控えめな目標も設定しています。

結論

アジアの多くの国では英語を教育システムの優先事項とし、また経済発展の手段としても位置付けています。しかし、現時点で効果的な英語教育を実現できているアジアの国は少数で、ほとんどの国では成功しているとは言えません。アジアの教育システムが数学、科学、読解の分野では国際的に首位であることを考えるとこれは驚くべき事実です。世界経済の中でアジアの重要性が増す一方の中、文化を越えたコミュニケーション能力を持つ労働者の恩恵を受ける余地はまだ残されているでしょう。

アジア

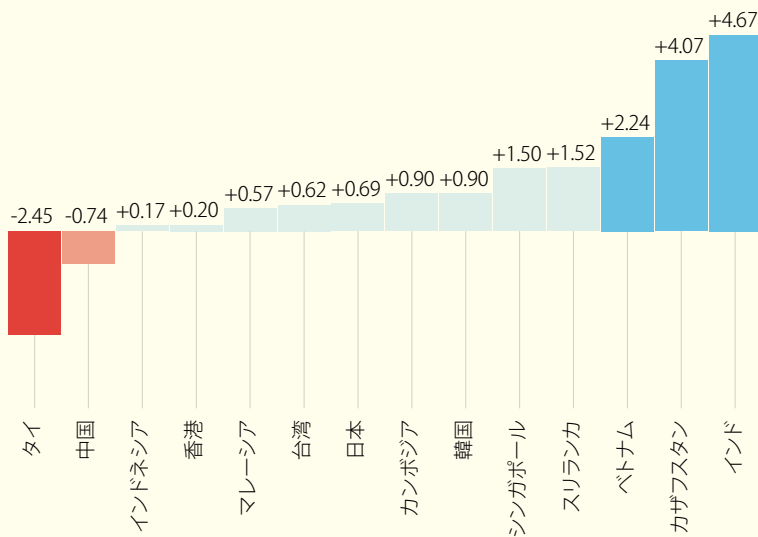


● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

EF EPIの傾向

アジアは全体的に英語教育への投資が盛んですが、豊かな国も含めて昨年比でEF EPIスコアの向上は見られませんでした。顕著な下落を見せたのはタイのみで、インド、カザフスタン、ベトナムは顕著に向上しました。

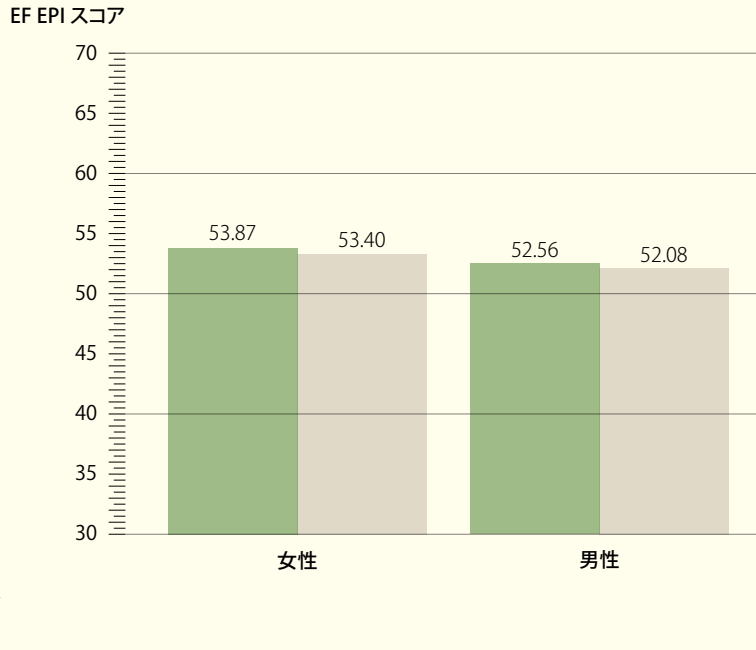
前年比



● 下降傾向 ● 上昇傾向
● やや下降 ● やや上昇

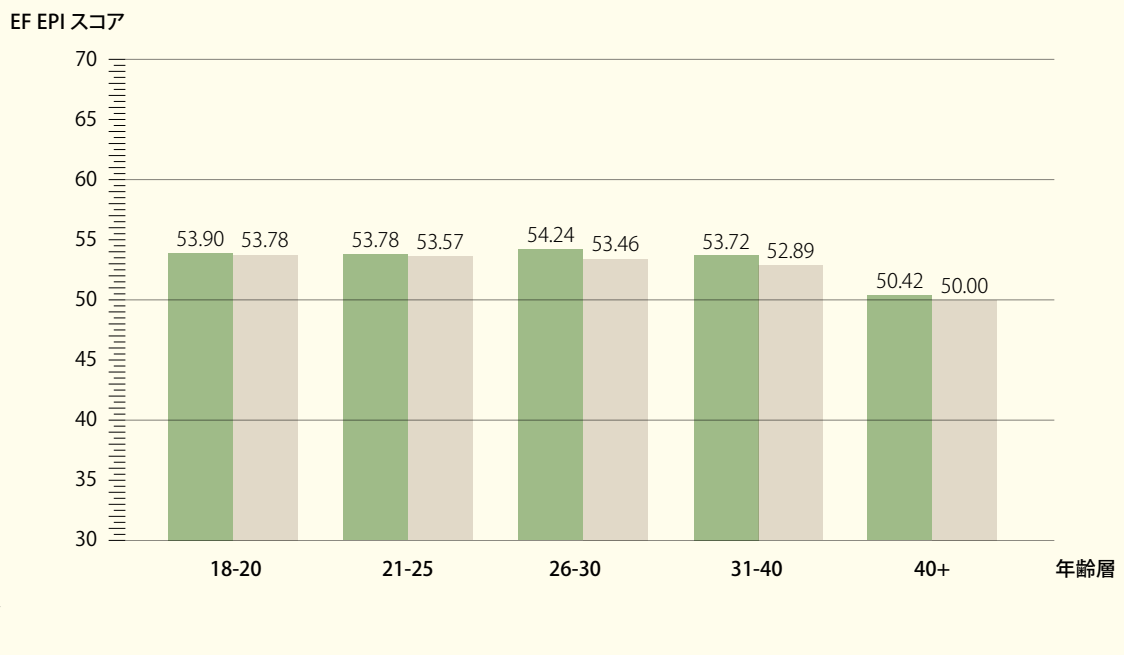
性別差

アジアでは女性と男性の両方が世界平均を上回っており、アジアの女性はアジアの男性よりも良い成績を残しています。



世代差

今年、アジアは世界平均に近付き、一部では追い越しています。40歳以上の年齢の成人は40歳未満に比べて顕著に低い能力レベルを示しています。











シンガポール

高い能力レベル
EF EPI スコア: 61.08

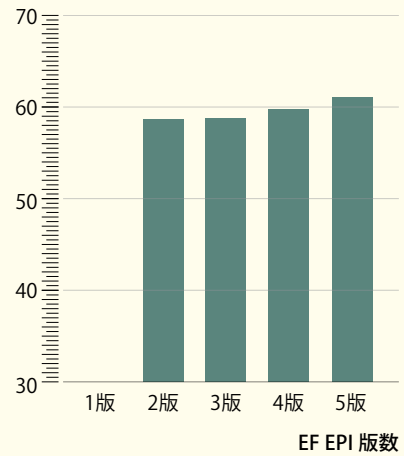


#12 / 70ヶ国中

しっかりとした基盤が既にあったシンガポールの英語レベルは過去6年間でさらに向上しています。人口密度が高く、多言語・多民族国家であるシンガポールは、英語が公用語および共通語として使用されているアジアの中でも数少ない国の一つです。シンガポールは社会的および経済的指数のスコアも高く、インターネット普及率、一人当たりの国民総所得、平均就学年数、政府支出の総額のうち教育支出の占める割合が高くなっています。シンガポールの教育制度は OECD によって世界で最も学習成果の高い教育制度の一つとして安定した評価を受けています。

| | |
|---|---|
|  前年比 | +1.50 ↗ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 98; 7.3 |
|  平均就学年数 | 10.2 |
|  教育支出 | 17.5% |
|  1人当たりの国民総所得 | 76,860 USD |
|  人口 | 5,567,301 |
|  インターネット普及率 | 73.0% |
|  言語 | 標準中国語 (公用語) 36.3%、英語 (公用語) 29.8%、マレー語 (公用語) 11.9%、福建語 8.1%、タミル語 (公用語) 4.4%、広東語 4.1%、潮州語 3.2%、その他 3.4% |

EF EPI スコア











マレーシア

高い能力レベル
EF EPI スコア: 60.30



#14 / 70ヶ国中









| | |
|---|---|
|  前年比 | +0.57 ↗ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 89; 7.0 |
|  平均就学年数 | 9.5 |
|  教育支出 | 21.0% |
|  1人当たりの国民総所得 | 22,530 USD |
|  人口 | 30,073,353 |
|  インターネット普及率 | 67.0% |
|  言語 | マレーシア語 (公用語)、英語、中国語 (広東語、標準中国語、福建語、客家語、海南語、福州語)、タミル語、テルグ語、マラーラム語、パンジャブ語、タイ語 |

インド

高い能力レベル
EF EPI スコア: 58.21



#20 / 70ヶ国中

| | |
|---|--|
|  前年比 | +4.67 ↑ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 91; 6.2 |
|  平均就学年数 | 4.4 |
|  教育支出 | 12.9% |
|  1人当たりの国民総所得 | 5,350 USD |
|  人口 | 1,236,344,631 |
|  インターネット普及率 | 15.1% |
|  言語 | ヒンディー語 41%、ベンガル語 8.1%、テルグ語 7.2%、マラーティー語 7%、タミル語 5.9%、ウルドゥー語 5%、グジャラート語 4.5%、カンナダ語 3.7%、マラーラム語 3.2%、オリヤー語 3.2%、パンジャブ語 2.8%、アッサム語 1.3%、マイティリー語 1.2%、その他 5.9% |

韓国

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 54.52

#27 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|------------------------------|
| 📅 前年比 | +0.90 ↘ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 85; 5.5 |
| 🏠 平均就学年数 | 11.8 |
| 📖 教育支出 | 25.0% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 33,360 USD |
| 👤 人口 | 49,039,986 |
| 🌐 インターネット普及率 | 84.8% |
| 🗨️ 言語 | 韓国語、英語（中学校および高等学校で広く教えられている） |

ベトナム

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 53.81

#29 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +2.24 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 78; 5.9 |
| 🏠 平均就学年数 | 5.5 |
| 📖 教育支出 | 21.4% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 5,070 USD |
| 👤 人口 | 93,421,835 |
| 🌐 インターネット普及率 | 43.9% |
| 🗨️ 言語 | ベトナム語（公用語）、英語、部分的なフランス語、中国語、クメール語、山岳地帯の言語 |

日本

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 53.57

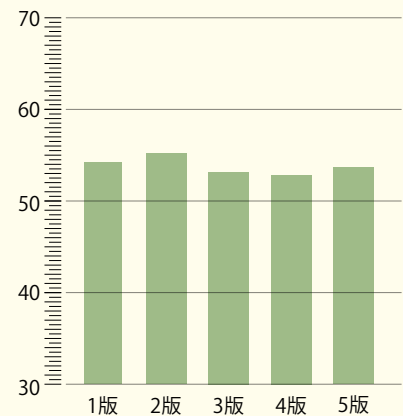
#30 / 70ヶ国中



日本の英語能力は向上していません。小学校での英語教育は2011年に開始されたばかりです。全年齢の生徒が教育課程のいずれかの時点で英語を学習するようになりましたが、指導方法はローマ字の書き写し、暗記、暗唱、より高いレベルでは翻訳に依存しています。国際的なコミュニケーションツールとしての英語はほとんど重要視されていません。英語能力の向上を目的とした一連の教育制度の改革が実施されていますが、現在のところ、成人の英語スキルに計測可能な向上は見られていません。

| | |
|-------------------|-------------|
| 📅 前年比 | +0.69 ↘ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 70; 5.6 |
| 🏠 平均就学年数 | 11.5 |
| 📖 教育支出 | 9.5% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 37,550 USD |
| 👤 人口 | 127,103,388 |
| 🌐 インターネット普及率 | 86.3% |
| 🗨️ 言語 | 日本語 |

EF EPI スコア



EF EPI 版数

台湾

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 53.18

#31 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|------------------------|
| 📅 前年比 | +0.62 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 79; 6.0 |
| 🏠 平均就学年数 | 該当なし |
| 📖 教育支出 | 該当なし |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 該当なし |
| 👤 人口 | 23,359,928 |
| 🌐 インターネット普及率 | 該当なし |
| 🗨️ 言語 | 標準中国語 (公用語)、台湾語、客家語の方言 |

インドネシア

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 52.91

#32 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|------------------------------|
| 📅 前年比 | +0.17 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 82; 6.2 |
| 🏠 平均就学年数 | 7.5 |
| 📖 教育支出 | 18.1% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 9,270 USD |
| 👤 人口 | 253,609,643 |
| 🌐 インターネット普及率 | 15.8% |
| 🗨️ 言語 | インドネシア語 (公用語)、英語、オランダ語、地方の方言 |

香港

標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 52.70

#33 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +0.20 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 83; 6.3 |
| 🏠 平均就学年数 | 10.0 |
| 📖 教育支出 | 18.2% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 54,270 USD |
| 👤 人口 | 7,112,688 |
| 🌐 インターネット普及率 | 74.2% |
| 🗨️ 言語 | 広東語 (公用語) 89.5%、英語 (公用語) 3.5%、普通話 (標準中国語) 1.4%、その他の中国語の方言 4%、その他 1.6% |

パキスタン

低い能力レベル
EF EPI スコア: 49.96

#45 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | 該当なし |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 90; 6.2 |
| 🏠 平均就学年数 | 4.7 |
| 📖 教育支出 | 10.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 4,840 USD |
| 👤 人口 | 196,174,380 |
| 🌐 インターネット普及率 | 10.9% |
| 🗨️ 言語 | パンジャブ語 48%、シンド語 12%、サライキ語 (パンジャブ語の派生言語) 10%、パシュトー語 (またの名をパシュトゥーン語) 8%、ウルドゥー語 (公用語) 8%、バローチー語 3%、ヒンドコ語 2%、ブラーフーイー語 1%、英語 (公用語)、ブルジャスキー語、その他 8% |

中国

低い能力レベル
EF EPI スコア: 49.41

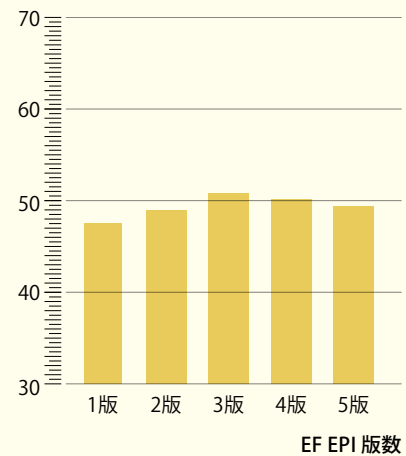
#47 / 70ヶ国中

中国の広大な国土と成人の英語教育のニーズに対応するには、オンライン教育が適しています。その結果として、中国内にある民間の英語教育企業の多くがオンラインへの進出を続けており、インターネットを使って都市部から離れた遠隔地へのサービスを拡大しています。中国内ではオンライン学習者が急増しているものの、インターネットへアクセスできるのは人口の50%以下に留まっており、オンライン教育の普及の妨げとなっています。



| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | -0.74 ↓ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 77; 6.0 |
| 🏠 平均就学年数 | 7.5 |
| 📖 教育支出 | 該当なし |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 11,850 USD |
| 👤 人口 | 1,355,692,576 |
| 🌐 インターネット普及率 | 45.8% |
| 🗨️ 言語 | 標準中国語 (公用語)、広東語、上海語、福州語、福建語、台湾語、湘語、客家語の方言、少数言語 |

EF EPI スコア



スリランカ

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 47.89

#49 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | +1.52 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 85; 6.3 |
| 🏠 平均就学年数 | 10.8 |
| 📖 教育支出 | 8.8% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 9,470 USD |
| 👤 人口 | 21,866,445 |
| 🌐 インターネット普及率 | 21.9% |
| 🗨️ 言語 | シンハラ語 (公用語および国語) 74%、タミル語 (公用語) 18%、その他 8% |

カザフスタン

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 47.04

#54 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 📅 前年比 | +4.07 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 80; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 10.4 |
| 📖 教育支出 | 13.0% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 20,680 USD |
| 👤 人口 | 17,948,816 |
| 🌐 インターネット普及率 | 54.0% |
| 🗨️ 言語 | ロシア語 (公用語) 95%、カザフ語 (公用語、カザク語) 64.4% |









タイ



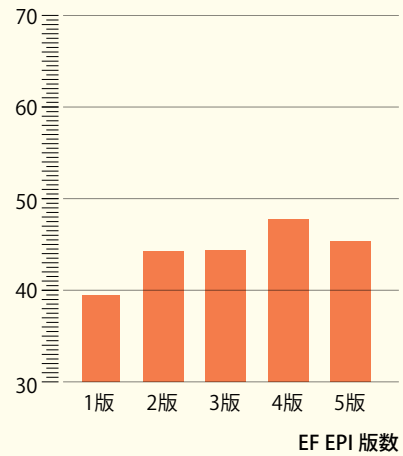
非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 45.35

#62 / 70ヶ国中

タイの学校制度は国際的な評価において全ての科目で低い評価を受けています。平均就学年数は地域平均より低く、タイの成人は他のアジアの国の成人と比べて教育を受ける機会が少ないことを意味しています。国家の観光産業における英語スキルの需要にも関わらず、タイでは成人の英語能力も低くなっています。一人当たりの国民総所得が低く、塾や英語の家庭教師による教育を受けられるのは上流階級の人々に限られ、全ての人が利用可能な状態ではないことを意味しています。

| | |
|---|----------------------------------|
|  前年比 | -2.45 ↓ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 76; 5.3 |
|  平均就学年数 | 7.3 |
|  教育支出 | 31.3% |
|  1人当たりの国民総所得 | 13,430 USD |
|  人口 | 67,741,401 |
|  インターネット普及率 | 28.9% |
|  言語 | タイ語 (公用語) 90.7%、ビルマ語 1.3%、その他 8% |

EF EPI スコア











モンゴル



非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 43.64

#64 / 70ヶ国中

| | |
|---|-------------------------------|
|  前年比 | 該当なし |
|  TOEFL/IELTS スコア | 70; 該当なし |
|  平均就学年数 | 8.3 |
|  教育支出 | 12.2% |
|  1人当たりの国民総所得 | 8,810 USD |
|  人口 | 2,953,190 |
|  インターネット普及率 | 17.7% |
|  言語 | ハルハ語 (公用語) 90%、 チュルク語、ロシア語 |

カンボジア



非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 39.15

#69 / 70ヶ国中

| | |
|---|--------------------------------|
|  前年比 | +0.90 ↗ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 69; 該当なし |
|  平均就学年数 | 5.8 |
|  教育支出 | 13.1% |
|  1人当たりの国民総所得 | 2,890 USD |
|  人口 | 15,458,332 |
|  インターネット普及率 | 6.0% |
|  言語 | クメール語 (公用語) 96.3%、 その他 3.7% |

経済の国際化が進む中、アジアはグローバル化を促進するためのツールとして英語トレーニングに投資をしています。



上海市

中南米

EF EPI 平均: 51.26
人口: 547,066,813
1人当たりの国民総所得: 14,744 USD



能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

より優れた英語の成果を求めて邁進する中南米

2007年以降、中南米は良い軌道に乗っていますが、地域内では成人の英語能力が依然として低いままです。この指数に取り上げられている中南米14ヶ国のうち、1つの国を除く全ての国が昨年よりも向上しました。しかしながら、2ヶ国の例外を除いて、中南米の英語能力は低くなっています。

政府は英語を最優先

近年、中南米の政策立案者や経済学者は、経済成長促進のために教育改革を最優先させてきました。2014年には公立学校における英語指導の質を向上させるために国家戦略と投資が開始されました。もし効果があれば、このような教師トレーニングプログラムが現在在学中の生徒たちに影響を与えるでしょう。中南米では、若年層の成人が地域内で一番高い英語能力を示しており、同世代の世界平均と比べてもそこまで引けをとってはいません。しかしながら、中南米では成人に英語を教えるために作られた国家プログラムは少数しかありません。

チリとパナマの教育改革

OECDとUNESCOの両方の国際教育能力評価で中南米トップの評価を受けているチリは、EF EPIで中南米諸国の上位国でもあります。2003年に、チリの教育省は中南米で最も早期に開始された英語トレーニング国家戦略の一つであるEnglish Opens Doors Programを開始しました。このプログラムでは、2,000人以上の英語を話す外国人ボランティア教師の採用や訓練を行い、英語の集中訓練やコンテストを開催し、チリ人教師の専門的能力の開発を支援してきました。2014年の再選後も、ミシェル・バチェレ大統領はプログラムに取り組み、任期中に1,000校のチリの学校に働きかけました。

パナマのEF EPスコアは去年と比べて上昇し、世界のどの国よりも大きな伸びを見せました。この躍進にもかかわらず、大多数のパナマ人成人は国境を越えて働くために必要な英語能力を持っていません。英語をパナマ経済の推進力とみなし、ファン・カルロス・バレラ大統領はPanama Bilingual Programを2014年に開始しました。このプログラムには国内外での教師トレーニング、小学生に対する英語の追加レッスン、中等学校生徒のための放課後の英語課外クラスが含まれています。このプログラムの目標は、今後4年間で2万5千人のバイリンガル教師と26万人のバイリンガルの生徒を産み出すことです。

メキシコとブラジルは目標高く

アメリカとの経済的、社会的な繋がりの強さにもかかわらず、メキシコ人成人の英語能力は依然低いままです。地理的な近接性を活用する試みとして、2018年までに10万人のメキシコ人学生をアメリカに送り、短期集中英語コースを受けさせるために、メキシコ政府は昨年Project 100,000を開始しました。その見返りとして、アメリカは2018年までに5万人の生徒をメキシコに留学させることを約束しました。この2国間による戦略は、国境をまたぐ両国の言語能力を強化することを目的としています。

ブラジルもまた、英語スキルを向上させるための国際的な交流に賭けています。2013年に、大学生が英語圏の国の大学院へ進学するための準備ができるよう、教育省はEnglish Without Borders (国境なき英語) を立ち上げました。開始後から、English Without Bordersはブラジル国内全域の120以上の国立大学から何千人もの生徒たちに試験と訓練を実施してきました。2014年の暮れに、教育省はEnglish Without Bordersの名前をLanguages Without Borders (国境なき言語) に変更して、7つの言語をプログラムに追加することを発表しました。これらの大規模戦略は、グローバルな職場でブラジル人学生が働くために、もっと強固な言語能力が必要であることを認識したのになっています。

2014年のFIFAワールドカップと2016年のリオデジャネイロオリンピックに先駆けて、ブラジルの教育省と観光省は2012年に共同でPronatec Turismoを開始し、120の市町村で15万人以上の観光従事者に英語とスペイン語のレッスンを提供しています。従事者は54の分野に特化した授業から、ビジネス英語スキルを向上するために需要を選ぶことができます。ブラジルの英語レベルは昨年から少し上昇していますが、ブラジルの労働力における十分な英語を話す人材の数を顕著に増加させるほどまでには至っていません。

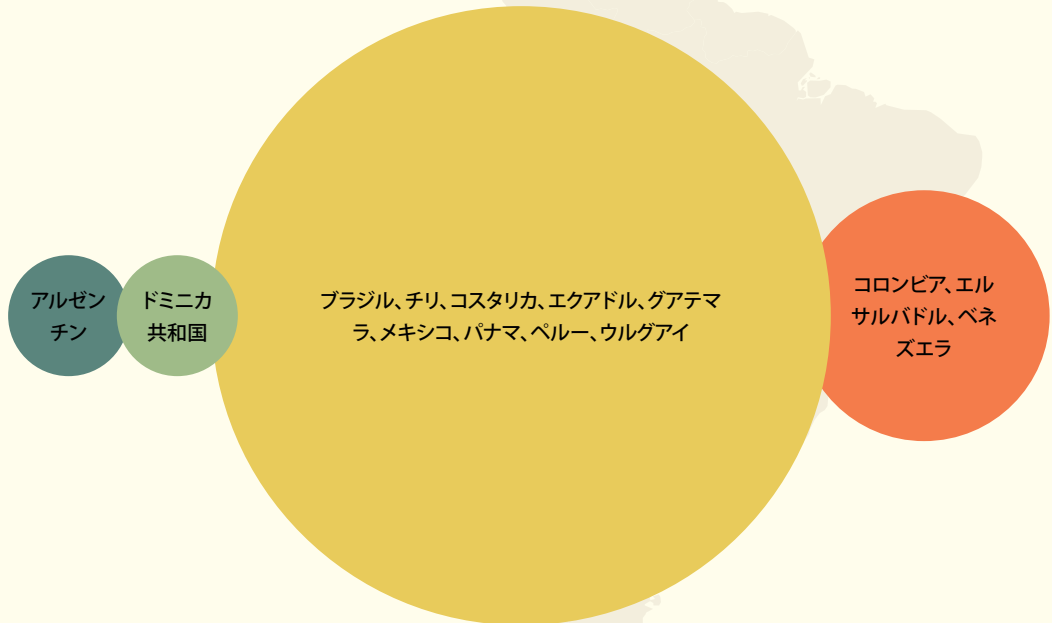
コロンビアはトレンドの反転を期待

コロンビアも英語トレーニングに投資しています。2014年の7月に、ファン・マヌエル・サントス大統領は、政府が今後10年間に渡り6億9千万米ドルの投資を行い、B2レベルの英語能力を持つ大学卒業生の数を倍にし、1万2千人の教師に対してトレーニングを実施し、4万人の就業者にプライベート英語レッスンを助成すると発表しました。公教育への支出の低く、英語スキルが弱いコロンビアには、英語能力を上昇させる機会がまだ沢山残されています。

結論

中南米は、英語教育の増強または徹底的な見直しに重点をおいた新しい政府プログラムが次々と開始されており、その多くが過去3年の間に開始されています。これらのプログラムは選挙の公約として掲げられていたもので、公教育制度を強化し、学生や就業者にグローバル経済に参加するためのより良い機会を与えたいという、中南米の人々の強い要求が反映されています。これらのプログラムの成果が見られるのはまだこれからです。

中南米

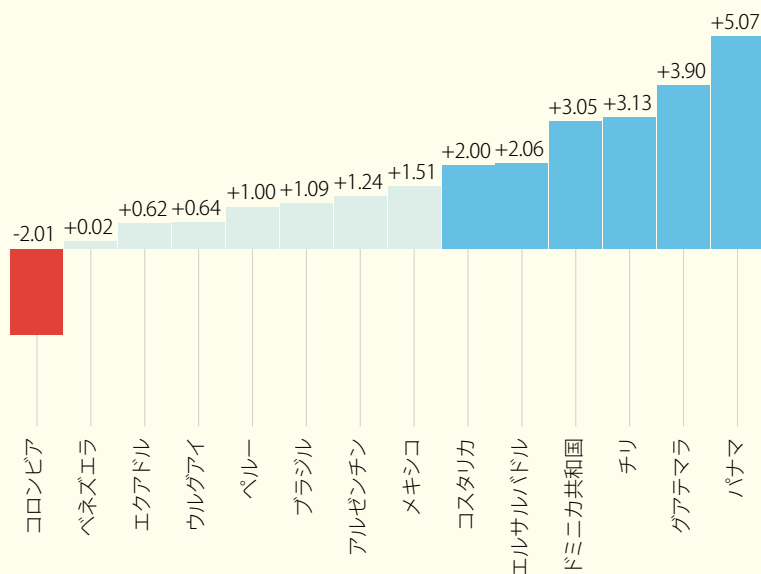


● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

EF EPIの傾向

今年のEF EPIでは中南米が他のどの地域よりも大幅に上昇しており、パナマは指数全体の中で最も大きな上げ幅を見せています。1つの国を除いて、全ての国が去年の能力とレベルと同じかまたは上昇傾向にあり、6つの国が顕著に上昇しています。

前年比

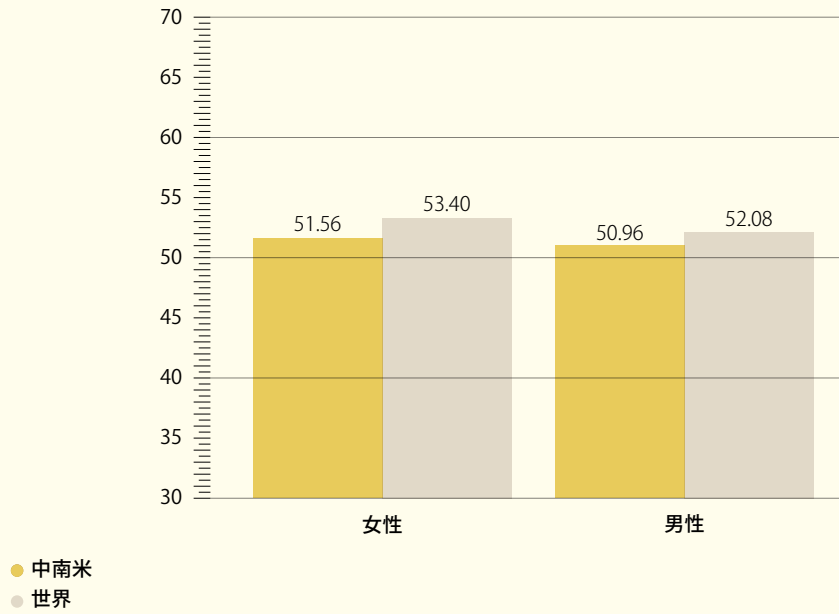


● 下降傾向 ● 上昇傾向
● やや下降 ● やや上昇

性別差

中南米では男女ともに世界平均を下回っていますが、男女差はどの地域よりも小さくなっています。

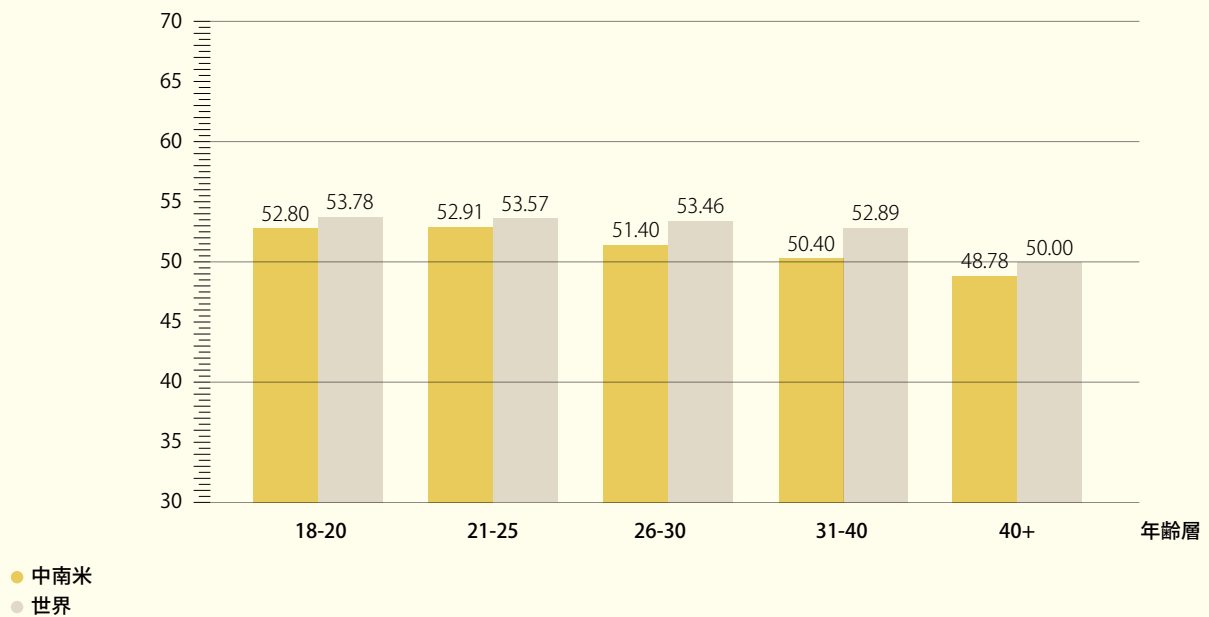
EF EPI スコア



世代差

中南米の若年成人(18~25歳)は世界平均に最も近く、中堅世代(26~40歳)は同世代の世界平均から最も離れています。

EF EPI スコア











アルゼンチン



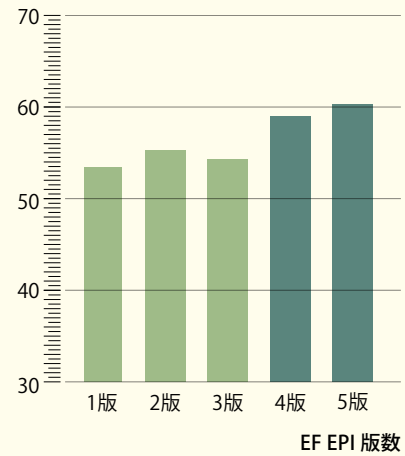
高い能力レベル
EF EPI スコア: 60.26

#15 / 70ヶ国中

アルゼンチンの成人は中南米で最高の英語能力を持っており、ヨーロッパ基準に従って、過去8年間で顕著な進歩を見せています。アルゼンチンは地域内では識字率が最も高く、TOEFLのスコアも世界上位です。中南米の他の多くの国と比べて、アルゼンチンは国家予算からの教育支出が低くなっていますが、地域内で最も平均就学年数が高い国の一つです。

| | |
|---|--|
|  前年比 | +1.24 上 |
|  TOEFL/IELTS スコア | 93; 該当なし |
|  平均就学年数 | 9.8 |
|  教育支出 | 14.7% |
|  1人当たりの国民総所得 | 該当なし |
|  人口 | 43,024,374 |
|  インターネット普及率 | 59.9% |
|  言語 | スペイン語 (公用語)、イタリア語、英語、ドイツ語、フランス語、先住民の言語 (マプチェ語、ケチュア語) |

EF EPI スコア







ドミニカ共和国



標準的な能力レベル
EF EPI スコア: 56.71

#24 / 70ヶ国中








| | |
|---|-------------|
|  前年比 | +3.05 上 |
|  TOEFL/IELTS スコア | 82; 該当なし |
|  平均就学年数 | 7.5 |
|  教育支出 | 20.6% |
|  1人当たりの国民総所得 | 11,630 USD |
|  人口 | 10,349,741 |
|  インターネット普及率 | 45.9% |
|  言語 | スペイン語 (公用語) |

ペルー



低い能力レベル
EF EPI スコア: 52.46

#35 / 70ヶ国中

| | |
|---|--|
|  前年比 | +1.00 上 |
|  TOEFL/IELTS スコア | 87; 該当なし |
|  平均就学年数 | 9.0 |
|  教育支出 | 15.2% |
|  1人当たりの国民総所得 | 11,160 USD |
|  人口 | 30,147,935 |
|  インターネット普及率 | 39.2% |
|  言語 | スペイン語 (公用語) 84.1%、ケチュア語 (公用語) 13%、アイマラ語 (公用語) 1.7% |

チリ

低い能力レベル
EF EPI スコア: 51.88

#36 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | +3.13 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 85; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 9.8 |
| 📖 教育支出 | 19.2% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 21,060 USD |
| 👤 人口 | 17,363,894 |
| 🌐 インターネット普及率 | 66.5% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語 (公用語) 99.5%、 英語 10.2%、先住民族の言語 (マプチェ語、アイマラ語、ケチ ュア語、ラバ・ヌイ語を含む) 1%、その他 2.3% |

エクアドル

低い能力レベル
EF EPI スコア: 51.67

#38 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | +0.62 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 80; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 7.6 |
| 📖 教育支出 | 10.3% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 10,720 USD |
| 👤 人口 | 15,654,411 |
| 🌐 インターネット普及率 | 40.4% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語 (カスティージャ語) (公用語) 93%、ケチュア語 4.1%、外国語 2.2% |

メキシコ

低い能力レベル
EF EPI スコア: 51.34

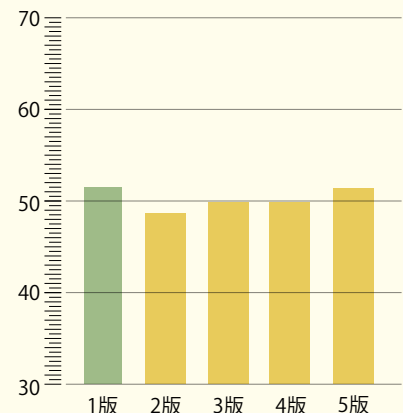
#40 / 70ヶ国中



メキシコの英語能力は地域内では標準的ですが、世界全体から見ると低くなっています。メキシコのアメリカとの密接な結びつきや高い移民率を考慮すると、これは少々驚くべき状況かもしれません。メキシコの公費に占める教育支出率は中南米の中で最高です。メキシコでは教職の販売や相続が行われているため、資格を持たない英語教師が多く存在しています。2013年に、政府はこの問題を解決するための長期教育改革を開始しました。

| | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 📅 前年比 | +1.51 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 86; 6.1 |
| 🏠 平均就学年数 | 8.5 |
| 📖 教育支出 | 19.6% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 16,020 USD |
| 👤 人口 | 120,286,655 |
| 🌐 インターネット普及率 | 43.5% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語のみ 92.7%、スペイン 語と先住民族の言語 5.7% |

EF EPI スコア



EF EPI 版数

ブラジル



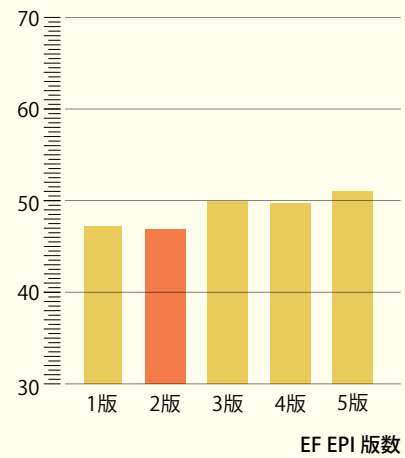
低い能力レベル
EF EPI スコア: 51.05

#41 / 70ヶ国中

近年の複数の大規模な教育改革と英語教師トレーニングプログラムの甲斐なく、ブラジルの英語能力は依然低いままです。ブラジルは2014年のFIFAワールドカップと2016年のオリンピックの勢いを利用して、英語学習へのモチベーションを高めるのに成功しています。数多くの大規模な英語学校チェーンや大量のオンライン英語学習プラットフォームがその成功を証明しています。中南米で最も人口が多い国であるブラジルは、人材の現代化を試みている他の大国と同様の困難に直面しています。

| | |
|-------------------|----------------------------|
| 📅 前年比 | +1.09 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 83; 6.5 |
| 🏠 平均就学年数 | 7.2 |
| 📖 教育支出 | 14.6% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 14,750 USD |
| 👤 人口 | 202,656,788 |
| 🌐 インターネット普及率 | 51.6% |
| 🗨️ 言語 | ポルトガル語 (公用語かつ最も広く話されている言語) |

EF EPI スコア



コスタリカ



低い能力レベル
EF EPI スコア: 50.53

#43 / 70ヶ国中

| | |
|-------------------|----------------|
| 📅 前年比 | +2.00 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 93; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 8.4 |
| 📖 教育支出 | 該当なし |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 13,570 USD |
| 👤 人口 | 4,755,234 |
| 🌐 インターネット普及率 | 46.0% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語 (公用語)、英語 |

ウルグアイ



低い能力レベル
EF EPI スコア: 50.25

#44 / 70ヶ国中

| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | +0.64 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 93; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 8.5 |
| 📖 教育支出 | 14.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 18,940 USD |
| 👤 人口 | 3,332,972 |
| 🌐 インターネット普及率 | 58.1% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語 (公用語)、ポルトガル・ブラジル語 (ブラジル国境のポルトガル語・スペイン語の混合言語) |

グアテマラ

低い能力レベル
EF EPI スコア: 49.67

#46 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---------------------------------------|
| 📅 前年比 | +3.90 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 82; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 5.6 |
| 📖 教育支出 | 20.6% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 7,130 USD |
| 👤 人口 | 14,647,083 |
| 🌐 インターネット普及率 | 19.7% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語 (公用語) 60%、 アメリカンインディアン言語 40% |

パナマ

低い能力レベル
EF EPI スコア: 48.77

#48 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +5.07 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 84; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 9.4 |
| 📖 教育支出 | 13.0% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 19,300 USD |
| 👤 人口 | 3,608,431 |
| 🌐 インターネット普及率 | 42.9% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語 (公用語)、先住民族 の言語 (ンガベ語、ブグレ語、ク ナ語、エンベラ語、ウオナーン 語、プリプリ語を含む) |

コロンビア

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 46.54

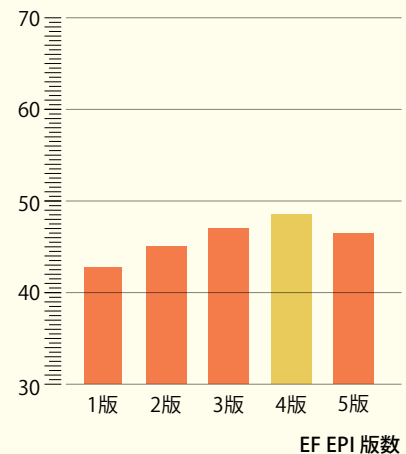
#57 / 70ヶ国中



コロンビアの成人は英語を僅かしか話すことができず、特に最近高校を卒業したばかりの若者の英語能力は世界平均よりも著しく低くなっています。コロンビアの多くの学校で、英語教師の能力が不足しています。コロンビアの英語教師の75%がB1レベルかそれ以下の英語レベルです。収入格差が大きく経済力が弱いこの国では、民間セクターでの英語学習や英語集中訓練プログラムは多くの人々にとって高額すぎて手が届きません。

| | |
|-------------------|-------------|
| 📅 前年比 | -2.01 ↓ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 81; 5.8 |
| 🏠 平均就学年数 | 7.1 |
| 📖 教育支出 | 16.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 11,960 USD |
| 👤 人口 | 46,245,297 |
| 🌐 インターネット普及率 | 51.7% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語 (公用語) |

EF EPI スコア



ベネズエラ

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 46.14

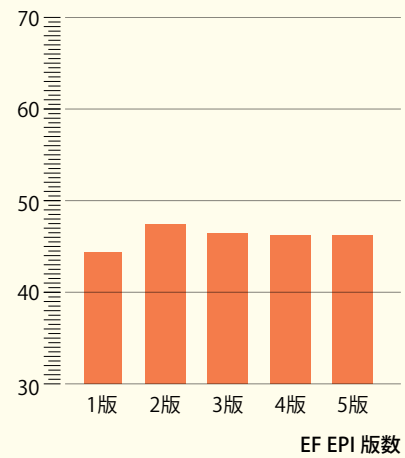
#59 / 70ヶ国中



ベネズエラの成人の英語スキルは一貫して低いままです。義務教育はあるものの、国内に高水準の貧困や大規模な社会格差があるため、国民を十分に教育するための形式的な制度が欠如しています。ベネズエラの財政支出に占める教育支出の割合は地域内でも最高で、教育の成果の低さに反して、世界の中でも上位国の一つです。インターネットの接続性が中南米で一番高く、オンラインツールが英語学習の現実的な選択肢の一つとなっています。

| | |
|-------------------|-------------------------|
| 📅 前年比 | +0.02 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 83; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 8.6 |
| 📖 教育支出 | 20.7% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 17,900 USD |
| 👤 人口 | 28,868,486 |
| 🌐 インターネット普及率 | 54.9% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語 (公用語)、数多くの先住民族の方言 |

EF EPI スコア



エルサルバドル

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 45.52

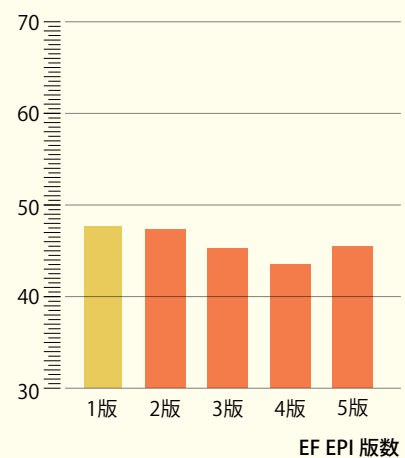
#61 / 70ヶ国中



エルサルバドルの英語能力は中南米で最も低くなっています。国内の高い犯罪率と貧困率が学生の通学を妨げており、多くの人々が読み書き、計算の基礎学力を持たず、仕事市場に求められる言語スキルも持っていません。学習の差を埋めるための海外救助が行われていますが、十分と言うには程遠いのが現状です。エルサルバドルでは、インターネットにアクセスできるのは4人に1人以下の割合で、一人当たりの国民総所得が世界で最も低い国の一つとなっています。

| | |
|-------------------|---------------------------------|
| 📅 前年比 | +2.06 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 85; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 6.5 |
| 📖 教育支出 | 15.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 7,490 USD |
| 👤 人口 | 6,125,512 |
| 🌐 インターネット普及率 | 23.1% |
| 🗨️ 言語 | スペイン語 (公用語)、ナワ語 (アメリカインディアンの一部) |

EF EPI スコア



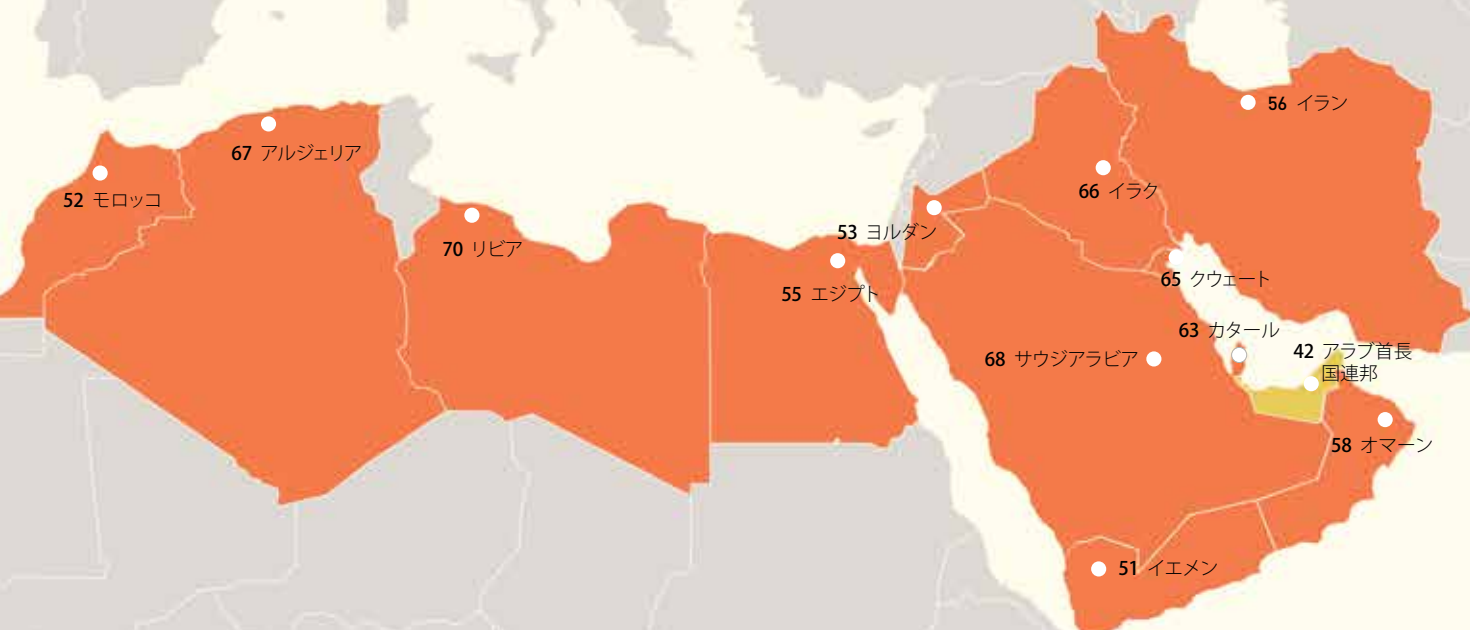


サンパウロ

近年、中南米の政策立案者や経済学者は、経済成長促進のために教育改革を最優先させてきました。

中東と北アフリカ(MENA)

EF EPI 平均: 44.85
人口: 371,362,139
1人当たりの国民総所得: 17,132 USD



能力レベル

- 非常に高い
- 高い
- 標準的
- 低い
- 非常に低い

英語の不振が続くMENA諸国

中東と北アフリカは英語能力レベルが世界で最も低く、全体としての能力レベルも下降しています。初等教育への受け入れの大幅な拡大、女学生の増加、農村地方における教育障害の軽減など、大きく進歩した一方で、MENAの学校制度における英語教育は顕著な進歩を見せていません。

まだ続く長い道のり

この地域の国々の多くで、学生一人当たりの支出が同レベルの成長をしているアジア諸国よりも高くなっていますが、より高額な投資が良い結果に結びついていません。ヨルダン、カタール、チュニジア、アラブ首長国連邦の4ヶ国だけが2012年のOECD PISAテストに参加していますが、数学、科学、読解において4ヶ国全てがOECDの平均をはるかに下回っており、そのうち3ヶ国は調査の中で最も成果の低い学校制度を持つ6か国の中に含まれています。男女ともに世界平均を著しく下回っており、MENA地域の世代差は世界のどの地域よりも格差が大きくなっています。

英語でなんとかやっていく

アラブ首長国連邦の英語能力は世界と比べると低いですが、MENA地域の中では少し高い方です。高度に多国籍化した社会と巨大な貿易関連経済のおかげで、アラブ首長国連邦では英語が広く行き渡っています。アラブ首長国連邦の英語能力について議論する際は、国内に居住している900万人以上のうち自国民は20%以下しかいないという事実を考慮に入れる必要があります。EF EPIは受験者を居住している国で分類しており、出生国での分類は行っていません。こうすることで、成人人口の英語レベルについて正確な感覚を得ることができますが、アラブ首長国連邦でテストを受験した受験者の多くが海外の学校制度で教育を受けているため、英語能力レベルはアラブ首長国連邦の教育制度の評価には使用できません。

他の多くの国々と同様、アラブ首長国連邦でも母国語が異なる人々の間における共通言語は英語ですが、他国とは異なり、母国語は異なるのが通常であり、例外ではありません。国内に英語が普及されていることを考えると、英語能力のこの低さは驚きです。英語に触れる機会や使用する機会が多いと通常は能力が推進されますが、このケースの場合、人々はただなんとかやっているだけのようです。

マグレブが英語を容認

フランスとの貿易や移民の歴史的な繋がりがあるにもかかわらず、マグレブ内の国々は英語を人材の現代化およびヨーロッパへのアクセスをより深めるための方法と考えています。英語能力レベルは依然非常に低いですが、能力向上を目標とした試験計画があります。

例えば、ブリティッシュ・カウンシルとアルジェリア政府は、国内にいる3万2千人の中等学校の教師全員を対象として、対面およびオンラインの英語トレーニングを検査官とトレーナーのネットワークを通して提供する、3年間の教師トレーニングプロジェクトSEEDSを立ち上げました。この計画は、公立高校の卒業試験で一番点数が低い英語テストの点数を上げることを目標としています。

英語を西洋文化から切り離す

サウジアラビアやイエメンのような社会的に保守的な国々では、西洋文化との関連を理由として英語が拒絶されることが予想されますが、そのような予想に反して、世論調査では英語が国際的コミュニケーションのツールとして広く受け入れられていることが常に示されています。英語が心から受け入れられるようになったのは、こうした英語の有益性に対する見方によります。英語はサウジアラビアの学校で教えられている唯一の外国語で、大学レベルのコースの多くで指導言語となっています。しかしながら、より文化的に適切な英語教材に対する需要が増えています。

サウジアラビアの教育制度はMENA地域の多くの国々と同様、学生の試験準備を目的とした機械的学習と暗記が主体となっています。このような効果のない指導方法は、サウジアラビアで大学に進学した生徒のほとんどが学部の勉強を始める前に英語の補習コースを必要としていることを意味します。英語はサウジアラビア国営の石油会社の運用言語であり、王国内の数多くの専門職で必須とされているように、英語スキルへの高い需要がありますが、英語を話す現代化された人材のトレーニングができるようになるには、教育制度の大幅な改革が必要でしょう。

雇用の構造的問題

MENA諸国の効果的な教育改革を妨げる大きな困難の一つが労働市場の構造にあります。多くの国々で労働人口の半数ほどが公営企業に雇用されており、この地域以外のほとんどの経済圏よりもはるかに高い割合となっています。民間セクターは、政府と繋がりのある企業に燃料補助金を出し、競争から保護する一方で外企業を締め出すために貿易の障害を課す規制によって成長が抑圧されています。MENA諸国の雇用セクターのほとんどが非正規雇用で、正規雇用されているのは労働年齢人口の19%でしかありません。

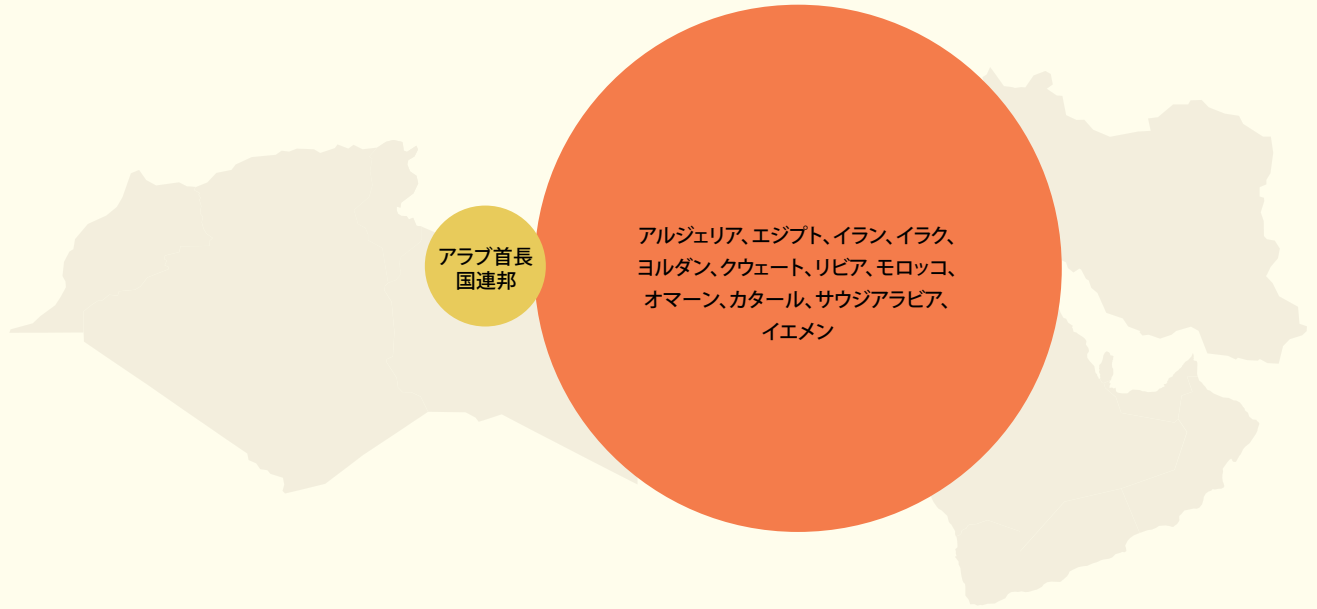
MENA諸国の若年人口、学士号保有者の間における失業率が高いことから、仕事不足は目に見えて明らかです。ヨーロッパやその他の国への移住も困難を伴うことから、若い大卒者の多くが自国で無職になるか、海外で不安定な状況で生活するかを選択を迫られています。

このような非効率な労働市場が教育改革をさらに困難にしています。教育改革による経済成長や雇用水準の向上の恩恵がどこに起因するのか明白ではなく、若年層に対する奨励も学業成績に対するやる気を引き起こしてはいません。

結論

MENA地域全体として、教育システムの改革は重要ですが、教育の目標となる経済的な動機が伴っていなければ十分ではありません。テクノロジーをより広く使用できるようにし、大規模な民間企業が成長できるよう経済を再構築することが特に必要となるでしょう。

中東と北アフリカ(MENA)

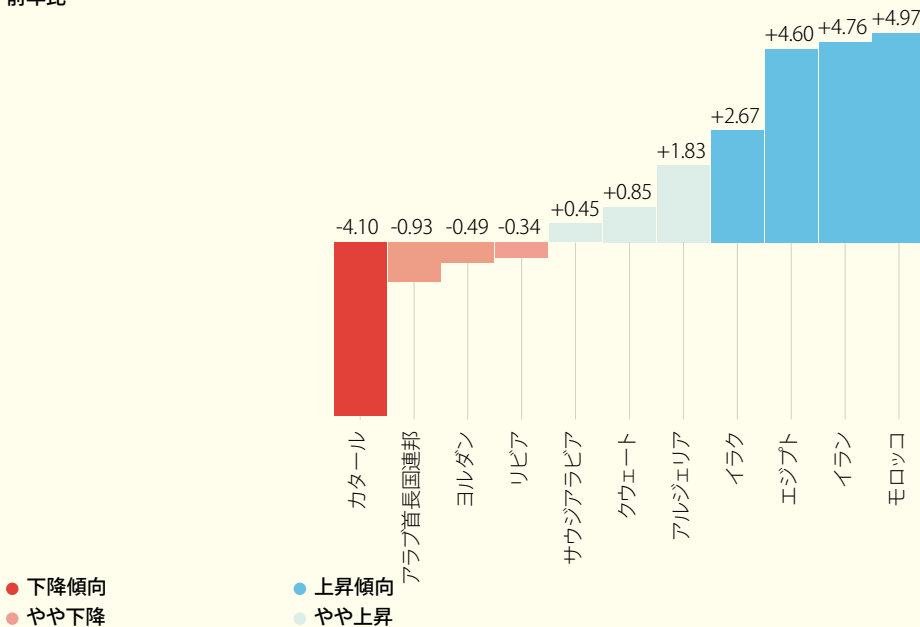


● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

EF EPI の傾向

MENAはどの地域よりも大きなスコア変動を見せており、最高・最低スコアともに5ポイント近くも変化しています。顕著な上昇を見せた4ヶ国とアラブ首長国連邦を除く全てのMENAの国が依然として能力グループの最下位に留まっています。

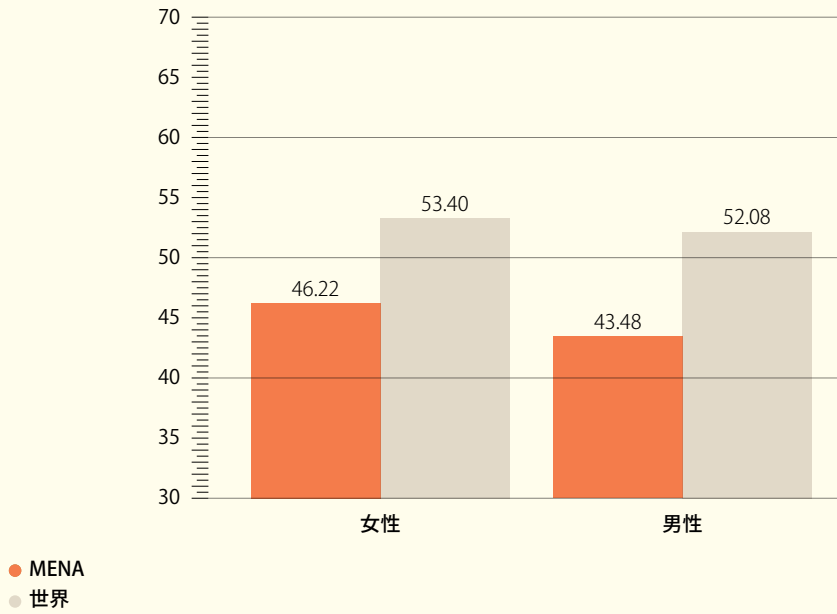
前年比



性別差

MENA地域では、男女ともに世界平均を顕著に下回っており、通常よりも大幅な差で女性のスコアの方が男性のスコアより高くなっています。

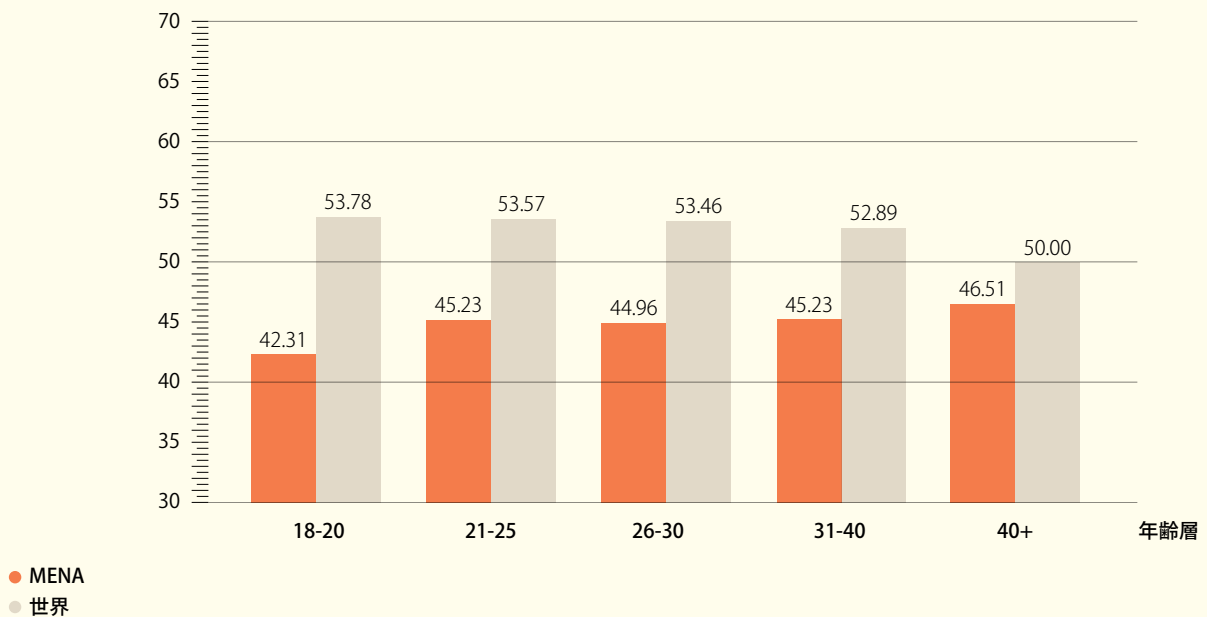
EF EPI スコア



世代差

MENA地域では、40歳以上の成人の英語スキルが一番高くなっています。これは若年層や中堅層の英語能力が一番高い傾向にある世界的なトレンドとは異なる傾向です。

EF EPI スコア










アラブ首長国連邦

低い能力レベル
EF EPI スコア: 50.87

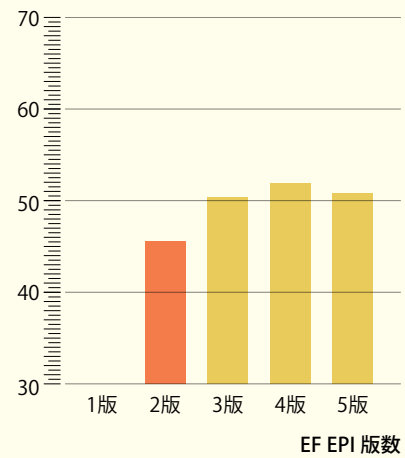


#42 / 70ヶ国中

アラブ首長国連邦の成人は、その他の地域の上位国と比べると英語能力が依然低いままですが、地域内では英会話能力が一番高くなっています。国語はアラビア語ですが、アラブ首長国連邦の労働人口のうち自国民はほんの一部しかいないため、職場でのコミュニケーションでは英語が事実上の公用語となっています。人口の80%以上が外国人です。アラブ首長国連邦の国際的な職場状況によって英語が頻繁に必須条件とされていることを考えると、成人の英語能力がもっと高くないのが驚きです。

| | |
|---|------------------------------------|
|  前年比 | -0.93 ↓ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 76; 4.4 |
|  平均就学年数 | 9.1 |
|  教育支出 | 該当なし |
|  1人当たりの国民総所得 | 59,890 USD |
|  人口 | 5,628,805 |
|  インターネット普及率 | 88.0% |
|  言語 | アラビア語 (公用語)、ペルシャ語、英語、ヒンディー語、ウルドゥー語 |

EF EPI スコア











イエメン

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 47.60



#51 / 70ヶ国中









| | |
|---|-------------|
|  前年比 | 該当なし |
|  TOEFL/IELTS スコア | 70; 該当なし |
|  平均就学年数 | 2.5 |
|  教育支出 | 12.5% |
|  1人当たりの国民総所得 | 3,820 USD |
|  人口 | 26,052,966 |
|  インターネット普及率 | 20.0% |
|  言語 | アラビア語 (公用語) |

モロッコ

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 47.40



#52 / 70ヶ国中

| | |
|---|---|
|  前年比 | +4.97 ↑ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 79; 該当なし |
|  平均就学年数 | 4.4 |
|  教育支出 | 18.3% |
|  1人当たりの国民総所得 | 7,000 USD |
|  人口 | 32,987,206 |
|  インターネット普及率 | 56.0% |
|  言語 | アラビア語 (公用語)、ベルベル諸語 (タマジクト語(公用語)、タシュリヒート語、タリフィート語)、フランス語(ビジネス、政府、外交における言語として頻用されている) |

ヨルダン

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 47.33

#53 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | -0.49 ↓ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 78; 6.1 |
| 🏠 平均就学年数 | 9.9 |
| 📖 教育支出 | 該当なし |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 11,660 USD |
| 👤 人口 | 7,930,491 |
| 🌐 インターネット普及率 | 44.2% |
| 🗨️ 言語 | アラビア語 (公用語)、英語 (上流・中級階級で幅広く理解 されている) |

エジプト

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 46.73

#55 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | +4.60 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 83; 6.2 |
| 🏠 平均就学年数 | 6.4 |
| 📖 教育支出 | 9.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 10,790 USD |
| 👤 人口 | 86,895,099 |
| 🌐 インターネット普及率 | 49.6% |
| 🗨️ 言語 | アラビア語 (公用語)、英語とフ ランス語は教育を受けている階級 層で広く理解されている |

イラン

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 46.59

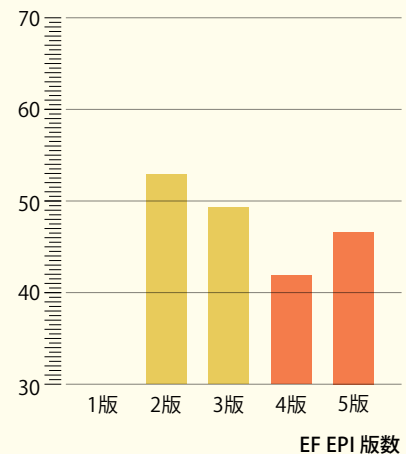
#56 / 70ヶ国中



イランのEF EPIスコアは昨年から5ポイント近く上昇しましたが、過去6年間の全体的なトレンドはそこまで良好ではありません。イランのインターネット普及率は低く、多くの生徒が中等学校から英語学習を始めています。イランの公費における教育支出は地域平均を上回っていますが、中東の他の国よりも学生の平均就学年数が短くなっています。国が提供する英語教育は低水準であるという考えが広まっており、多くの生徒が学習者主導の教授法を求めて私立の教育機関へ転進しています。

| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +4.76 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 82; 6.2 |
| 🏠 平均就学年数 | 7.8 |
| 📖 教育支出 | 17.0% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 15,610 USD |
| 👤 人口 | 80,840,713 |
| 🌐 インターネット普及率 | 31.4% |
| 🗨️ 言語 | ペルシャ語 (公用語) 53%、アゼルバ イジャンテュルク語とテュルク語の方 言 18%、クルド語10%、ギラキ語とマ ーザンダラーン語 7%、ロル語 6%、バ ローチー語 2%、アラビア語 2%、その 他 2% |

EF EPI スコア



オマーン

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 46.34

#58 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|--|
| 📅 前年比 | 該当なし |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 65; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 6.8 |
| 📖 教育支出 | 10.9% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 52,780 USD |
| 👤 人口 | 3,219,775 |
| 🌐 インターネット普及率 | 66.5% |
| 🗨️ 言語 | アラビア (公用語)、英語、パロ ーチー語、ウルデュー語、イン ドの方言 |

カタール

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 43.72

#63 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | -4.10 ↓ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 77; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 9.1 |
| 📖 教育支出 | 7.4% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 128,530 USD |
| 👤 人口 | 2,123,160 |
| 🌐 インターネット普及率 | 85.3% |
| 🗨️ 言語 | アラビア語 (公用語)、第2言語 として英語が一般的に使用さ れている |

クウェート

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 42.65

#65 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|----------------|
| 📅 前年比 | +0.85 ↗ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 72; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 7.2 |
| 📖 教育支出 | 13.4% |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 84,800 USD |
| 👤 人口 | 2,742,711 |
| 🌐 インターネット普及率 | 75.5% |
| 🗨️ 言語 | アラビア語 (公用語)、英語 |

イラク

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 40.69

#66 / 70ヶ国中



| | |
|-------------------|---|
| 📅 前年比 | +2.67 ↑ |
| 📄 TOEFL/IELTS スコア | 65; 該当なし |
| 🏠 平均就学年数 | 5.6 |
| 📖 教育支出 | 該当なし |
| 💰 1人当たりの国民総所得 | 14,930 USD |
| 👤 人口 | 32,585,692 |
| 🌐 インターネット普及率 | 9.2% |
| 🗨️ 言語 | アラビア語 (公用語)、クルド語 (公 用語)、トルクメン語 (トルコ語の方 言) とアッシリア語 (現代アラム語) もアッシリア人とアラム人が人口の 大部分を占める地域では公用語と して使用されている、アルメニア語 |









アルジェリア

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 40.34

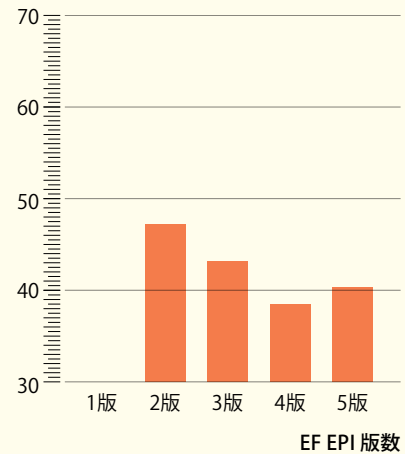
#67 / 70ヶ国中



アルジェリアの英語能力は非常に低く、さらに下降しています。調査の中で最も悪い成績だった受験者の中にはこの国の受験者が複数人含まれています。アルジェリアにおけるビジネスおよび科学の第一言語は英語ですが、それ以外の分野で英語が注目されることはありません。アルジェリアの言語景観はダイナミックですが、英語は大幅に除外されています。アラビア語は国語および公用語で、フランス語は一部のグループでは共通語として今も使用されており、複数のベルベル語の方言も広く話されています。

| | |
|---|--|
|  前年比 | +1.83 ↗ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 73; 該当なし |
|  平均就学年数 | 7.6 |
|  教育支出 | 11.4% |
|  1人当たりの国民総所得 | 13,070 USD |
|  人口 | 38,813,722 |
|  インターネット普及率 | 16.5% |
|  言語 | アラビア語 (公用語)、フランス語 (リングワ・フランカ)、ベルベル諸語: カビール系ベルベル語 (タマジクト語)、シャウヤ系ベルベル語 (シャウィート語)、ムザブ系ベルベル語、とアレグ系ベルベル語 (タマシエク語) |

EF EPI スコア











サウジアラビア

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 39.93

#68 / 70ヶ国中





| | |
|---|-------------|
|  前年比 | +0.45 ↗ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 61; 4.3 |
|  平均就学年数 | 8.7 |
|  教育支出 | 17.7% |
|  1人当たりの国民総所得 | 53,640 USD |
|  人口 | 27,345,986 |
|  インターネット普及率 | 60.5% |
|  言語 | アラビア語 (公用語) |

リビア

非常に低い能力レベル
EF EPI スコア: 37.86

#70 / 70ヶ国中



| | |
|---|---|
|  前年比 | -0.34 ↓ |
|  TOEFL/IELTS スコア | 73; 該当なし |
|  平均就学年数 | 7.5 |
|  教育支出 | 該当なし |
|  1人当たりの国民総所得 | 28,080 USD |
|  人口 | 6,244,174 |
|  インターネット普及率 | 16.5% |
|  言語 | アラビア語 (公用語)、イタリア語、英語、ベルベル語 (ナフサ語、ガタミス語、ソクナ語、アウジラ語、タマシエク語) |

英語と経済および生活の質

英語は大英帝国の下で国際貿易と外交の言語としての影響力を及ぼし始め、第2次世界大戦後に米国の経済発展によって全世界に広まりました。フランス語を話すことが高い教育を受けた上流階級の象徴とされていた国々の多くでも、英語がそれに代わっていきましました。しかしながら、国際化や都市化、さらにインターネットの普及により、英語の役割はここ20年間でまた大きく変わってきています。

現在では英語能力はエリートの象徴ではなくなり、米国や英国との結びつきも希薄になってきています。それよりもむしろ就労者全体に求められる基本的な能力となってきており、それはちょうど知的階級の特権だった識字能力が、過去200年で教育を受けた市民なら誰もが持つ能力となったのと同じ感覚といえます。

今日ほど、英語が世界のビジネスを容易にしている時代はありません。世界銀行と国際金融公社の**ビジネスの行いやすさ** (図 A) の指標は、世界中の経済の規制環境をビジネスの起業と運営のしやすさで順位づけしています。この指標には企業のしやすさ、国境を越えた貿易のしやすさ、契約執行のしやすさ、破産のおそれなどを含む10種類の指標も含まれています。英語が公用語ではない国々では、英語スキルの高さがビジネスの行いやすさと比例しています。

英語を社内公用語へ切り替える企業(ノキア、楽天、ルノー、サムスンなど)が増えてきています。起業家の発展を目指している国や企業の方はぜひメモしてください:英語スキルは企業に優しい環境づくりの重要な要素です。

英語は機会の創出、雇用適性の決定付け、視野の拡大などの役割を果たしています。このように、英語は国家の経済開発の鍵となっているのです。

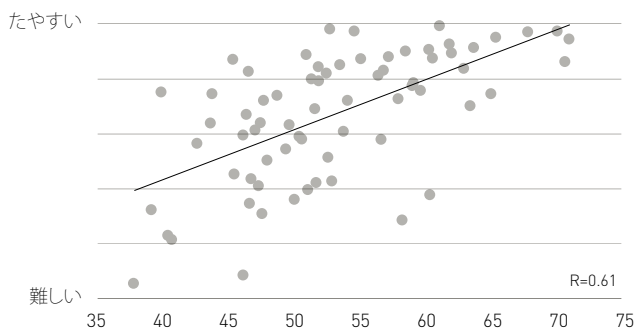
英語能力と一人当たりの**国民総所得** (図 B) の比例関係は、英語能力の向上が高収入に繋がることで政府と個人がより多額の費用を英語教育に投資できる好循環ができていることを示唆しています。多くの国々で、英語能力が高いと就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない**若年数が減少する** (図 C) 反比例の関係が見られます。

人材開発指数 (図 D) などの生活の質を現す指標もEF EPIと比例しています。人材開発指数は教育的達成、平均寿命、識字能力、生活水準を測定しています。「低い」または「標準的」な英語能力の国の中にも少数ながら成長レベルの高い国があります。しかしながら、すべての「高い」および「非常に高い」英語能力の国は例外なく人材開発指数で「人材開発の質が非常に高い」と評価されています。

英語は私立学校や海外留学プログラムでしかよく学ぶことができない贅沢なものだと見なされていることがよくあります。英語が今日のコアスキルであることを示す証拠がこのレポートには記されています。そのような特別なステータスを持った英語は、母国語の読解や数学のスキルレベルと同等に教育し、試験を行うことができます。過去20年で英語の重要性が増したことを考慮すると、現在の子供たちが社会人になる時には実務に役立つ優れた言語力の重要性が今以上に増しているでしょう。

図 A: 英語とビジネスの行いやすさ

ビジネスの行いやすさ

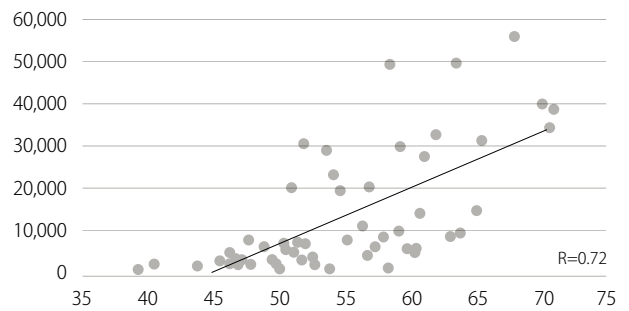


EF EPI スコア

参照: 世界銀行 (2012)

図 B: 英語と収入

調整済み一人当たりの国民純所得 (現在の米ドル)

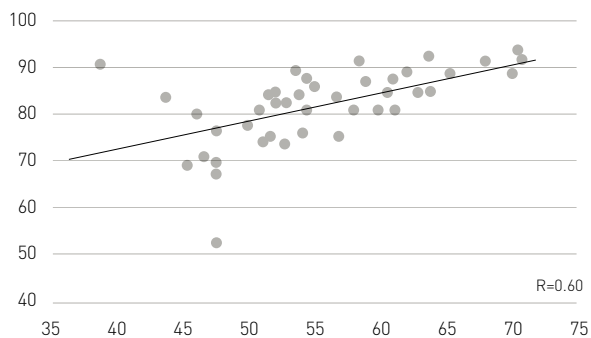


EF EPI スコア

参照: 国連人間開発報告書 (2014)

図 C: 英語と若年層の雇用・職業訓練

就学、就労、職業訓練における若年層の割合

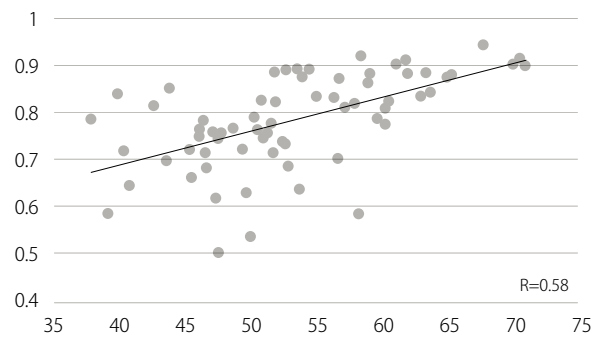


EF EPI スコア

参照: 世界銀行 (2012)

図 D: 英語と生活の質

人材開発指数(HDI)



EF EPI スコア

参照: 国連人間開発報告書 (2014)

英語とイノベーション

多国籍企業に共通する困難の一つに、さまざまな文化背景を持つ人材の中でグループとしての結び付きを築く難しさがあります。英語は国や文化が異なる従業員たちを結びつける架け橋となり、イノベーションのためのネットワークを紡ぎ出しているのです。

情報技術のセクターは国際的なコミュニケーションに依存しています。2014年にIEEEが行った調査では、世界のプログラム言語の上位10位すべてが英語をベースとした言語でした。その中でも、PythonとRubyの2言語は英語を母国語としない人々から作成されています。英語スキルが高い国々は、航空宇宙、コンピューター、製薬、科学機器、電気機械などの研究開発集約度の高い産業で**最先端技術を生産・輸出** (図 E) するより強い競争力を持っています。

英語は世界レベルにおける科学とエンジニアリングの中枢そのものです。英語能力の高い国々では、一人当たりの研究開発に携わる**研究者** (図 F) と**技術者** (図 G) の数が多くなっており、**研究開発のための支出** (図 H) も大きくなっています。他者の研究から学ぶ、国際会議や発表の場に参加する、多国籍な研究チームの共同研究、などの能力は全て素晴らしい英語能力に有無にかかっています。

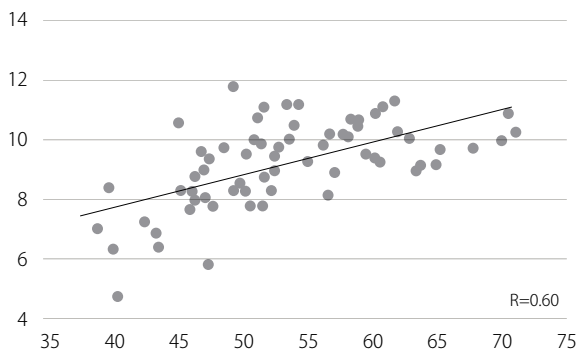
現在のところ、毎年米国の研究者による技術論文が最も多く発表されており、発表数では第2位の中国に次いで英国が第3位となっています。しかしながら、発表数の多さにもかかわらず、米国の30%や英国の8%に比べて中国の研究は全世界の技術論文で4%しか引用されていません。これは、中国の研究と世界的な知識経済の一体化が進んでいないことを意味しています。

英語能力の低い国々は、国際的な共同研究のレベルも通常低くなっています。2011年には、ベルギー、デンマーク、スウェーデンで発表された技術論文の半分以上が国際的な共同研究者の論文を引用していたのに対し、中国で発表された技術論文で国際的な共同研究者の論文を引用していたのは15%だけでした。このように、高度に訓練された専門家の間においても他者が発表した研究内容にアクセスする能力がなく、国際的なイノベーションに貢献する能力がないことは、英語スキルが乏しい国々にとって深刻な問題です。



図 E: 英語と最先端技術の輸出

最先端技術の輸出 (対数目盛り)

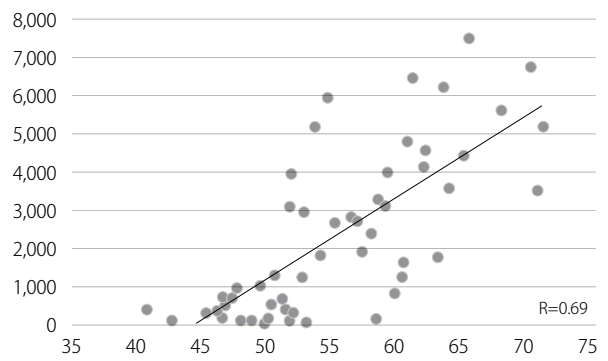


EF EPI スコア

参照: 世界銀行 (2013年)

図 F: 英語と研究者数

100万人当たりの研究開発に携わる研究者数

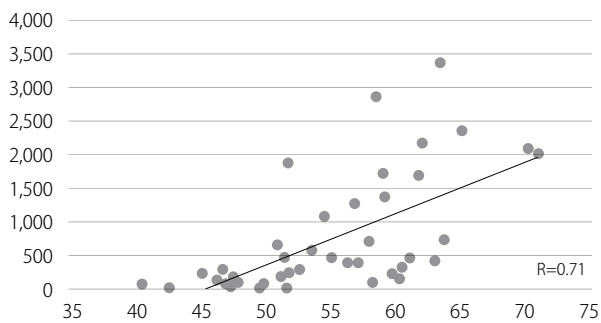


EF EPI スコア

参照: 世界銀行 (2012年)

図 G: 英語と技術者数

100万人当たりの研究開発に携わる技術者数

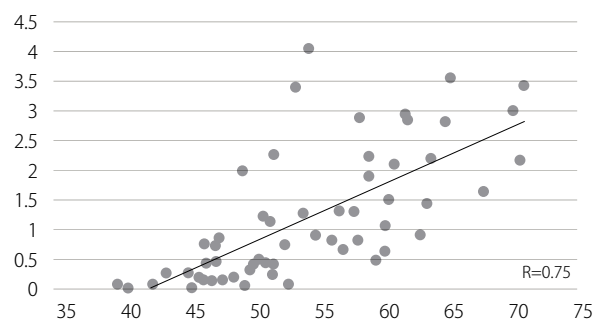


EF EPI スコア

参照: 世界銀行 (2012年)

図 H: 英語とイノベーションに対する支出

研究開発資金 (GDPに占める%)



EF EPI スコア

参照: 世界銀行 (2012年)

英語とインターネット

テクノロジーの進歩は生徒が英語をより効率的に学習するための手助けとなります。英語能力が高い国々では、**インターネット普及率** (図1) も高くなっています。英語スキルは国内のインターネットユーザー数と比例しています。多くの国々では、自己学習、MOOCs、クラスルーム・ツィニングは全て、学校や家庭でのインターネットアクセスがあつて初めて実現可能となります。言語の授業におけるテクノロジーの活用には発展の余地がまだ十分に残されていることを示しています。

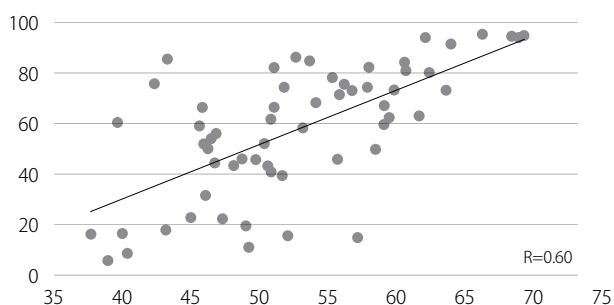
英語のオンライン学習とは、自分で英語力を強化できる活動です。英語スキルが向上することで、様々なオンラインツールやリソースにアクセスできるようになり、そのようなツールやリソースを活用することで、更なる英語能力の向上につながります。全てのオンラインコンテンツのうち、約56%は英語のコンテンツです。英語能力の低い国々では、オンラインツールが英語学習をより個人に合わせた、よりインタラクティブな、よりアクセスし

やすいものになっています。Groupe Spéciale Mobile Association (GSMA)およびMozilla Foundationによると、2017年までに、発展途上国のモバイルブロードバンド接続が30億件を超え、その半数がスマートフォンによる接続件数となることが予測されています。モバイル技術によって、何十億人もの人がウェブに参加し、ユーザー同士が、そして研究者、企業化、学者、その他の創造性のある人々と交流し合うことが可能になるのです。

オンラインでは日常茶飯事のことですが、母国語が異なる人々が出会った時、コミュニケーションには頻繁に英語が使われます。インターネット、世界的なコミュニケーションプラットフォーム、そして世界言語である英語が組み合わせられた時、ハイペースなアイデアとイノベーションの交換が世界中で可能になります。

図1: 英語とインターネット普及率

100人当たりのインターネットユーザー数



EF EPI スコア
参照: 世界銀行 (2013)



SEMI A
SPRING
25 D...ber
31 10:30
1 Jan 10:30



結論

年を経る度に、教育制度、組織、企業はシフトし、英語の現代版リンガ・フランカ（共通語）としての役割に順応しています。今日、国際的な職場における英語によるコミュニケーション能力は、つい10年前までは一言語だけが独占していた排他的なセクターや職種においても必須となっています。英語の普及が進むにつれ、言語レパートリー構築の機微についての認識もまた広がりを見せています。全ての人と同じ英語能力を持っているわけではありませんし、また必要としているわけでもありません。

第5版のEF EPIでは、英会話能力のある人材に対する需要が一貫して見られましたが、成人の英語能力は世界中で進歩しているわけではありません。ゴム草履やコンピューターチップなどの消耗品とは異なり、英語スキルに対する需要の高まりは、それだけで供給の増加が保証されるものではありません。言語を習得することは難しく高額です。特に言語を話すというような複雑な作業における成人の能力には惰性が備わっています。さらに、成人の英語スキルは、機敏な対応ができないことでは悪名高い公立学校の制度の影響を大きく受けています。しかしながら、このような惰性と安定性は本質的には悪いものではありません。世界の中には、これらの要素が成人の高い英語能力レベルの根底にある場合もあります。

英語能力が高い国々が共通して実践していた戦略は次のとおりです：

- **英語をその他の外国語から切り離していません。** 英語の経済における役割と教育制度についての国民的な議論が公的・私的な投資優先順位に結びついており、一方でそれと同時に、英語とその他の競合する国語や外国語との間の緊張を緩和しています。
- **初日から実用的なコミュニケーションスキルに重点を置いています。** 公的および民間の機関は特に初心者に向けて流暢さ、会話、リスニングに重きを置いた英語教育を行っています。理想的な標準英語アクセントはあまり重要視されていません。コミュニケーションよりも暗記に重きを置く指導方法は時代遅れになっています。
- **英語コミュニケーションを教える英語教師をトレーニングしています。** 適切に策定され、実行されれば、教師志望者に対する英語教師の専門的能力の開発と教師トレーニングプログラムの改革は、何代もの世代の学生に対して成果を実らせることができる賢い投資です。
- **効果的な英語能力判定ツールを発展させています。** 状況、ニーズ、学習者の目的が異なれば、評価方法も違ってきます。教育法に全面的な影響を与える重要な試験の見直しは特に重要です。高品質かつ無料で企業や成人学習者個人がアクセス可能な能力判定ツールを作ることは、継続教育におけるオープン・アクセス・トレンドの流れに沿っています。
- **職場や民間機関が成人トレーニングを支援しています。** 多くのケースで、成人の学習者は職場で英語のネイティブスピーカーと頻繁に交流する機会を持っており、向上意識が高く、スキル向上のための投資を惜しみません。英語教育を議論するときに、成人の英語トレーニングを外すことはできません。
- **テクノロジーとオンライン学習ツールに投資しています。** 成人の英語学習者にとって、授業形式以外の選択肢があることは非常に有益です。オンラインMOOCs、ガイド付きオンライン自己学習、休日集中コースを組み合わせることで、空き時間を利用して英語を向上させたいと思っている働く社会人をサポートすることができます。
- **その他の教育改革の枠組みの中でも英語を考慮に入れています。** 教育達成レベルが低く格差の大きな国々では、全ての学生が最低でも10年間は英語指導を含んだ良質の公教育を受けられるようにすることで、成人の英語能力は必ず向上します。

方向転換をするには大変な努力が必要ですが、英会話能力のある人材がいる未来へ向けて国、地域、企業の舵を取ることは見当違いではありません。経済面から見ても、英語は普及しており、最低でも今後数十年間は普及し続けるでしょう。世界中の成人の英語レベルを調査することによって、このような戦略的判断に貢献できることを願っています。

この指標について

分析方法

EF EPI英語能力指数は版を重ねる毎に、信頼できるデータ文献としてジャーナリストや教育者、選出議員、ビジネスリーダーなどに引用される機会が増えてきました。EFは、現在も世界中で続いている英語教育に関する会話に喜んで貢献しています。EF EPIを効果的に使用するためには、読者の方に分析方法を理解していただく必要があります。

EF EPIは、前年度に世界中の何十万という人々に受けてもらった一組の試験の結果を元に作成されています。この第5版のデータは、2014年に91万人の受験者に受けてもらった2種類のEF英語試験から計算されています。

試験

そのうち1種類の試験はインターネットで受けられる無料の試験となっています。残りの1種類は、英語コースを始める人がオンラインで受験するクラス分け試験で、EFが学生の入学手続きに使用している実力試験です。これら2種類の試験はすべて、文法、語彙、リーディング、リスニングの項が含まれています。

オンライン実力試験は30問の質問からなる適応性のある試験で、これは受験者が既に回答した成否に合わせて質問の難易度がされることを意味します。2万6千人の受験者に適応性のある試験を複数バージョン受けてもらい、それらの試験のスコアから、均一で一貫した分析方法を確立しました。残り1種類の試験は70問の質問で形成された非適応性のクラス分け試験です。これら2種類の試験の実施方法はすべて同じで、受験者が自宅のパソコンを使って行います。

EF EPI英語能力指数の受験者サンプルは、回答者が言語学習の意欲のある人に偏り気味ではありますが、男女の人数に差はなく、幅広い年齢の成人言語学習者が含まれています。女性回答者はサンプル全体の49.7%で、年齢の中央値は28歳です。回答者の98.5%は60歳以下となっています。男性回答者は女性よりも若干年齢が高くなり、年齢の中央値は女性回答者より2歳高くなっています。回答者は英語学習に対する関心が動機となって試験に参加しているため、サンプルは主に労働年齢で形成されていますが、学生やキャリアを始めたばかりの人が多い傾向があります。

この指数には、受験者数が400人以上の受験者の国だけのデータを使用していますが、受験者数が400人をはるかに超えている場合がほとんどでした。合計の受験者数にかかわらず、2種類の試験のいずれかの受験者数が10名以下の国のデータは使用していません。世界70の国と領域が含まれています。

この指標で表されている受験者は任意で受験した人々であり、その国全体のレベルを代表するわけではありません。これから英語を勉強したいと思っている人、あるいは自分の英語力を知りたいと思っている人だけがこの試験を受けているので、一般人口よりも高いまたは低いスコア結果になっている可能性があります。

試験の結果によって証書が出されたり、進級できるといった特典があるわけではないので、受験者がごまかしをして点数を上げるといったことはありません。

この試験は無料でオンライン受験ができるため、インターネット接続がある人なら誰でも

参加することができます。受験者の大多数が労働年齢または学業を修了したばかりの若年層の人たちです。インターネットにアクセスできない人、オンラインでの申し込みができない人は含まれていません。インターネットの使用率が低い国の結果では、このような受験者の除外による影響を大きく受けると考えられます。このようなサンプリングのバイアスは、低所得や教育を受けていない、劣悪環境にいる人々を含む一般人口の平均スコアよりも高くなる傾向があります。それでもなお、インターネットを使った自由参加型の試験方法は、世界の労働力における英語能力の進歩について膨大なデータを収集するのに効果的であることが証明されています。

スコアの計算法

各国のEF EPIスコアは、質問の総数に対する回答正解率から出されています。一国のスコアは試験の総得点の平均です。各国の全スコアは各テストに同じ重みをもたせるよう、2テスト間で平均化されています。地域および世界平均は、各地域に含まれる各国の人口によって荷重されています。

それぞれの国はスコアに応じて能力別グループに分けられています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。能力カテゴリーの枠組みは、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)とEFのコースレベルの基準で正確に区切られています。高いレベルのグループはCEFRのB2レベルです。高い・標準的・低い能力指数はCEFRのB1レベルです。非常に低い能力グループはCEFRのA2レベルです。各グループの英語学習者がどのようなレベルかを詳しく調べるには65ページをご参照ください。

その他の参照データ

EF EPIはEuromonitorやGallupなどの世論調査組織が行っている調査やOECDが行っているPISAやPIAACなどの技量調査とは全く異なった作業手順で作成されていることを言及しておく必要があります。これらの調査では、年齢、性別、教育レベル、収入、などの様々な要因を使って調査参加者を選択してパネル調査を行っています。このパネル調査は小規模になる傾向があり、多くても一国当たり数千人の参加者となりますが、複雑なサンプリング手法を使用して調査を行うことにより、その結果は人口全体を現すと考えられています。

英語能力に関するもう一つの参照データは、国家の教育制度によって作成されたものです。多くの国々が全ての高等学校で標準化した全国的評価試験を使って英語スキルの評価を行っています。試験の結果は公開されているものも非公開のものもあるかもしれませんが、教育者と政府関係者は教育改革の有効性の評価や、改善が必要な分野を特定するために試験結果を利用しています。

残念なことに、このような国家による評価は国家間で比較されるものではなく、成人に対しても実施されないため、一国の高校生の英語能力の長年に渡る変化を知るための良い指標であるにもかかわらず、国家間で学生を比較することも成人の英語能力レベルについて知ることもできません。

EF EPIは全国試験の結果や言語世論調査、またはその他のいかなるデータと競合することや、その内容を否定することを目的とはしておらず、これら全てのデータはお互いを補完し合うものです。一種類の年齢グループ、国、または受験者プロフィールだけに焦点をあてた精細な調査も存在しています。EF EPIは共通する分析方法を用いて、世界中の労働年齢成人を幅広く見渡しています。同等の規模と照準を持ったデータは他には存在しないため、制限はあるものの、EFおよびその他多くの人々によって、英語教育について会話する際の価値ある基準点と信頼されています。

EF EPI報告に関して

EF EPIの調査には3つの独立した報告が含まれます：メインのEF EPI報告は成人の英語能力を、企業向けEF EPI (EF EPI-c) は労働者の英語能力を、学生向けEF EPI (EF EPI-s) は高校生および大学生の英語能力を、それぞれ全世界を対象に調査しています。今年発行のEF EPIは第5版、EF EPI-sは第1版となります。EF EPI-cの第2版は2014年に発行されました。すべての報告は www.ef.com/epi で見ることができます。

EF EDUCATION FIRST (イー・エフ・エデュケーション・ファースト)

イー・エフ・エデュケーション・ファースト(www.ef.com)は、1965年に"opening the world through education."を使命として創設され、現在、50ヶ国以上に500の学校とオフィスを所有する国際教育機関です。長年にわたって言語、学術、文化的体験に重点的に取り組んだ実績が評価され、2016年リオ夏季オリンピックのオフィシャル言語プログラムサプライヤーにも選出されました。EF英語能力指数(www.ef.com/epi)はイー・エフ・エデュケーション・ファーストの事業部であるイー・エフ・ラーニング・ラボによって発行されています。

昨年の英語能力変化の概要:

EF EPIスコアの変化はその国のEF EPI第4版と第5版のスコアの差です。+2以上または-2以下の変化は英語能力における顕著な変化と見なされます。EF EPI第4版は2013年のデータを、第5版は2014年のデータをそれぞれ使用しています。

| 国 | EF EPI 第4版 | EF EPI 第5版 | スコア 変化 |
|----------|---------------|---------------|-----------|
| アルジェリア | 38.51 | 40.34 | +1.83 |
| アルゼンチン | 59.02 | 60.26 | +1.24 |
| オーストリア | 63.21 | 61.97 | -1.24 |
| アゼルバイジャン | — | 46.12 | 初参加 |
| ベルギー | 61.21 | 59.13 | -2.08 |
| ブラジル | 49.96 | 51.05 | +1.09 |
| カンボジア | 38.25 | 39.15 | +0.90 |
| チリ | 48.75 | 51.88 | +3.13 |
| 中国 | 50.15 | 49.41 | -0.74 |
| コロンビア | 48.54 | 46.54 | -2.01 |
| コスタリカ | 48.53 | 50.53 | +2.00 |
| チェコ共和国 | 57.42 | 59.01 | +1.59 |
| デンマーク | 69.30 | 70.05 | +0.75 |
| ドミニカ共和国 | 53.66 | 56.71 | +3.05 |
| エクアドル | 51.05 | 51.67 | +0.62 |
| エジプト | 42.13 | 46.73 | +4.60 |
| エルサルバドル | 43.46 | 45.52 | +2.06 |
| エストニア | 61.39 | 63.73 | +2.34 |
| フィンランド | 64.40 | 65.32 | +0.92 |
| フランス | 52.69 | 51.84 | -0.86 |
| ドイツ | 60.89 | 61.83 | +0.94 |
| グアテマラ | 45.77 | 49.67 | +3.90 |
| 香港 | 52.50 | 52.70 | +0.20 |
| ハンガリー | 58.55 | 57.90 | -0.66 |
| インド | 53.54 | 58.21 | +4.67 |
| インドネシア | 52.74 | 52.91 | +0.17 |
| イラン | 41.83 | 46.59 | +4.76 |
| イラク | 38.02 | 40.69 | +2.67 |
| イタリア | 52.80 | 54.02 | +1.22 |
| 日本 | 52.88 | 53.57 | +0.69 |
| ヨルダン | 47.82 | 47.33 | -0.49 |
| カザフスタン | 42.97 | 47.04 | +4.07 |
| クウェート | 41.80 | 42.65 | +0.85 |
| ラトビア | 59.43 | 57.16 | -2.27 |
| リビア | 38.19 | 37.86 | -0.34 |

| 国 | EF EPI 第4版 | EF EPI 第5版 | スコア 変化 |
|----------|---------------|---------------|-----------|
| リトアニア | — | 55.08 | 初参加 |
| ルクセンブルク | — | 63.45 | 初参加 |
| マレーシア | 59.73 | 60.30 | +0.57 |
| メキシコ | 49.83 | 51.34 | +1.51 |
| モンゴル | — | 43.64 | 初参加 |
| モロッコ | 42.43 | 47.40 | +4.97 |
| オランダ | 68.99 | 70.58 | +1.59 |
| ノルウェー | 64.33 | 67.83 | +3.50 |
| オマーン | — | 46.34 | 初参加 |
| パキスタン | — | 49.96 | 初参加 |
| パナマ | 43.70 | 48.77 | +5.07 |
| ペルー | 51.46 | 52.46 | +1.00 |
| ポーランド | 64.26 | 62.95 | -1.31 |
| ポルトガル | 56.83 | 60.61 | +3.78 |
| カタール | 47.81 | 43.72 | -4.10 |
| ルーマニア | 58.63 | 59.69 | +1.06 |
| ロシア | 50.44 | 51.59 | +1.15 |
| サウジアラビア | 39.48 | 39.93 | +0.45 |
| シンガポール | 59.58 | 61.08 | +1.50 |
| スロバキア | 55.96 | 56.34 | +0.38 |
| スロベニア | 60.60 | 64.97 | +4.37 |
| 韓国 | 53.62 | 54.52 | +0.90 |
| スペイン | 57.18 | 56.80 | -0.38 |
| スリランカ | 46.37 | 47.89 | +1.52 |
| スウェーデン | 67.80 | 70.94 | +3.14 |
| スイス | 58.29 | 58.43 | +0.14 |
| 台湾 | 52.56 | 53.18 | +0.62 |
| タイ | 47.79 | 45.35 | -2.45 |
| トルコ | 47.80 | 47.62 | -0.18 |
| ウクライナ | 48.50 | 52.61 | +4.11 |
| アラブ首長国連邦 | 51.80 | 50.87 | -0.93 |
| ウルグアイ | 49.61 | 50.25 | +0.64 |
| ベネズエラ | 46.12 | 46.14 | +0.02 |
| ベトナム | 51.57 | 53.81 | +2.24 |
| イエメン | — | 47.60 | 初参加 |

| | | |
|------------|----|--|
| 熟練者 | C2 | 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。 |
| | C1 | いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文を理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文を作ることができる。 |
| 自立した言語使用者 | B2 | 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑な文の主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文を作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる |
| | B1 | 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のある文を作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。 |
| 基礎段階の言語使用者 | A2 | 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。 |
| | A1 | ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。 |

ヨーロッパ評議会の言葉

EF EPIの全ての国はレベルA2～B2の範囲に入っている。平均スコアが最低のA1に相当する国も、最高のC2,C1に相当する国もない。

Bolio, Eduardo et al. "A tale of two Mexicos: Growth and prosperity in a two-speed economy." March 2014. McKinsey and Company. http://www.mckinsey.com/insights/americas/a_tale_of_two_mexicos

Central Intelligence Agency. "The World Factbook." 2014. <https://www.cia.gov/library/publications/resources/the-world-factbook>

Chang, Bok-Myung. "The Role of English Language Education in Asian Context." 15 June 2011. Pan-Pacific Association of Applied Linguistics 15(1): 191-206.

Council of Europe. Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment. Cambridge: Cambridge University Press, 2011.

Council of Europe. Education and Languages, Language Education. Language Education Policy Profiles. http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Profils1_EN.asp#TopOfPage

Dugdale, Emily. "60% of Colombian teachers don't speak English: Education Minister." 11 July 2014. Colombia Reports. <http://colombiareports.co/60-colombian-teachers-dont-speak-english-according-education-minister>

Education, Audiovisual and Culture Executive Agency. "Key Data on Teaching Languages at School in Europe." European Commission. September 2012. http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice/documents/key_data_series/143EN.pdf

Eshtehardi, Reza. "Pro-ELT; A Teacher Training Blended Approach." October 2014. The British Council.

Government of the Republic of Panama. "Government and Ministry of Education launches Panama Bilingual Program." 3 July 2014. <https://www.presidencia.gob.pa/19-Government-and-Ministry-of-Education-launches-Panama-Bilingual-Program>

Jung, Min-Ho. "CSAT English test will become easier." 27 August 2014. The Korea Times. http://www.koreatimes.co.kr/www/news/nation/2014/08/116_163711.html

Meng, Jing. "Online education boom brings wealth to English teachers." 26 January 2015. China Daily. http://www.chinadaily.com.cn/business/2015-01/26/content_19403420_2.htm

Ministry of Education, Chile. "Programa Ingles Abre Puertas." 2014. <http://www.ingles.mineduc.cl>

Ministry of Education, Malaysia. "Preliminary Report Malaysia Education Blueprint 2013-2025." September 2012. <http://www.moe.gov.my/userfiles/file/PPP/Preliminary-Blueprint-Eng.pdf>

Organization for Economic Co-operation and Development. "PISA 2012 Results in Focus." 2012. <http://www.oecd.org/pisa/keyfindings/pisa-2012-results-overview.pdf>

Özen, Efsan Nas et al. "Turkey National Needs Assessment of State School English Language Teaching." November 2013. The Economic Policy Research Foundation of Turkey. http://www.tepav.org.tr/upload/files/haber/1395230935-0-Turkey_National_Needs_Assessment_of_State_School_English_Language_Teaching.pdf

Schiffbauer, Marc Tobias et al. "Jobs or Privileges: Unleashing the Employment Potential of the Middle East and North Africa." The World Bank. 2015. <http://www.worldbank.org/en/region/mena/publication/jobs-or-privileges-unleashing-the-employment-potential-of-the-middle-east-and-north-africa>

Simões, Ana Raquel et al. "The Project English Plus: a CLIL approach in a Portuguese school." December 2013. Indagatio Didactica 5(4). <http://revistas.ua.pt/index.php/ID/article/view/2565/2430>

Steer, Liesbet et al. "Arab Youth: Missing Educational Foundations for a Productive Life?" February 2014. Center for Universal Education at Brookings. http://www.brookings.edu/~media/research/files/interactives/2014/arab%20world%20learning%20barometer/arabworld_learningbarometer_en.pdf

Takahama, Yukihito. "Ministry telling schools to use private-sector English tests." 18 March 2015.

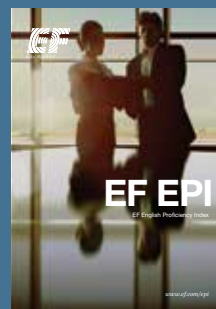
WWW.EF.COM/EPI から過去のEF EPIがダウンロードできます。



EF英語能力指数
第1版 (2011)



EF英語能力指数
第2版 (2012)



EF英語能力指数
第3版 (2013)



EF英語能力指数
第4版 (2014)



EF EPI

EF English Proficiency Index